

【表紙】	
【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年7月12日
【計算期間】	第29特定期間 （自 平成24年10月16日 至 平成25年4月15日）
【ファンド名】	パインブリッジ・ワールド株式・オープン
【発行者名】	パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 杉浦 和也
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町一丁目3番1号 JAビル
【事務連絡者氏名】	小林 徹也
【連絡場所】	本店の所在の場所に同じ
【電話番号】	03（5208）5947
【縦覧に供する場所】	該当なし

第一部【ファンド情報】**第1【ファンドの状況】****1【ファンドの性格】****（1）【ファンドの目的及び基本的性格】**

ファンドの目的

世界各国の株式へ投資することにより、長期的に信託財産の成長を目指します。

ファンドの基本的性格

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品分類・属性区分において、以下のように分類されます。

< 商品分類表 >

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）
単 位 型 投 信	国 内	株 式
		債 券
	海 外	不動産投信
追 加 型 投 信	内 外	その他資産（ ）
		資産複合

（注）当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

< 属性区分表 >

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル（日本を含む）	
	年2回	日本	
	年4回	北米	あり （適時ヘッジ）
債券 一般 国債 社債 その他債券 クレジット属性（ ）	年6回 （隔月）	欧州	
	年12回 （毎月）	アジア	
		オセアニア	
不動産投信	日々	中南米	なし
その他資産（ ）	その他 （ ）	アフリカ	
資産複合（ ） 資産配分固定型 資産配分変更型		中近東（中東）	
		エマージング	

（注）当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

< 商品分類・属性区分の定義 >

追加型投信...一度設定されたファンドであっても、その後追加設定が行われ、従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

内外...目論見書または信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるもの

株式...目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるもの

株式 一般...目論見書または信託約款において、主として株式（株式 一般...大型株、中小型株の属性区分に当てはまらないすべてのもの）に投資する旨の記載があるもの

年12回（毎月）...目論見書または信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるもの

グローバル（日本を含む）…目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が世界（日本を含む）の資産を源泉とする旨の記載があるもの

為替ヘッジあり（適時ヘッジ）…目論見書または信託約款において、為替のフルヘッジまたは一部資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるもの（当ファンドにおいては、基本的に為替ヘッジを行わないが、為替動向により適時ヘッジを行うものとする。）

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

商品分類・属性区分の定義の詳細につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご参照ください。

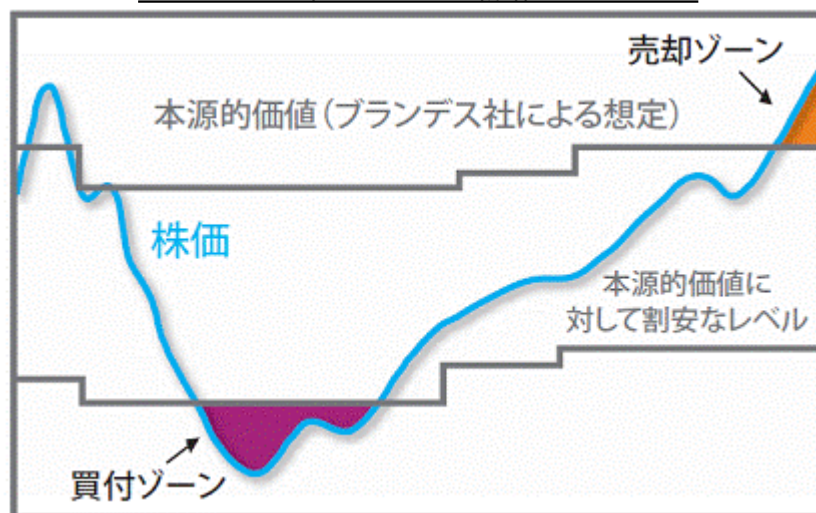
ファンドの特色

- 1) 世界各国（エマージングカントリーを含みます。）の株式市場を投資対象として、バリュアプローチによって、本源的価値を下回った価格で取引されている割安銘柄の発掘に努め、厳選して投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。
- 2) 当ファンドはMSCIワールド・インデックス（円ベース）をベンチマークとし、これを上回る投資成果を目指して積極的な運用を行います。
MSCIワールド・インデックスとは
MSCIワールド・インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界主要国の株価指数を各国の株式時価総額をベースに合成したものです。なお、MSCIワールド・インデックスはMSCI Inc. の知的財産であり、その著作権、知的財産権の一切は同社に帰属します。
- 3) 外貨建て資産については基本的には対円での為替ヘッジを行わない方針ですが、為替動向により円高が見込まれる場合には、為替ヘッジを行うこともあります。
- 4) 実際の運用にあたっては、ブランデス・インベストメント・パートナーズ・エルピー（Brandes Investment Partners, L.P.）（以下「ブランデス社」といいます。）に運用の指図に関する権限の一部を委託します。

ブランデス社の概要

ブランデス社は、徹底したリサーチと差別化されたプロセスに基づくバリュ投資（割安株投資）で定評の高い運用会社です。1974年に設立され、米国カリフォルニア州サンディエゴに本社があります。2013年3月末時点の運用総資産額は264億米国ドル（約2.7兆円（1米国ドル＝101円で換算））です。

<ブランデス社のバリュ戦略のイメージ>



上記はイメージ図であり、いかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

バリュアプローチとは

「マーケットで取引されている価格とは別に、企業には投資価値というもう一つの価格があり、株価と投資価値は循環などにより一時的に大きく離れることがあるが、長期的に見れば株価は本来の投資価値に戻る」という考えに基づき、企業のもっている投資価値、つまり本源的な価値（バリュ）を様々な財務指標およびマクロデータ、企業訪問などで得られたデータを分析することによって算出

し、それをもとに実際の株価と比較して、割安だと判断した企業に投資するという手法をいいます。

<ブランドス社の銘柄選択プロセス>



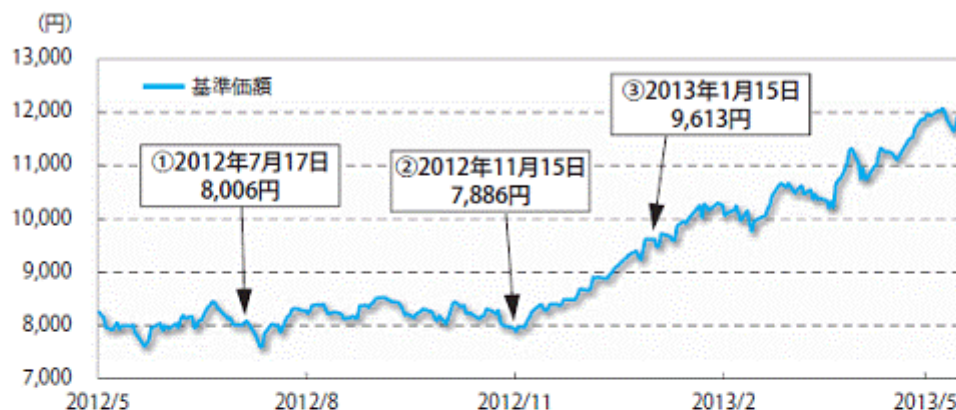
- 5) 毎月15日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、基準価額の水準等を勘案して分配を行います。なお、将来の分配金が保証されているものではなく、分配対象額が少額の場合等、分配を行わないこともあります。

分配金の決定プロセス

毎年1月15日および7月15日の決算日（休業日の場合は翌営業日）時点の基準価額水準を参照し、分配対象額の範囲内で当該基準価額水準の概ね1%程度の分配を行う予定ですが、基準価額水準等によりこのような運営ができないことがあります。また、分配金額は6ヵ月毎に見直しを行う予定ですが、基準価額水準等により適宜見直しを行う場合があります。

あらかじめ一定の分配をお約束するものではなく、分配対象額が少額の場合には委託会社の判断で分配を行わないことや、予告なく分配金額を変更する場合があります。

<直近1年間の分配金決定のイメージ>



①2012年7月17日の決算日の基準価額が8,006円だったため、以降6ヵ月間の分配金は100円に決定しました。

②2012年11月15日の決算日の基準価額(分配落ち前)が7,956円だったため、「基準価額水準等により適宜見直しを行う場合」に該当すると考え、当該決算日の分配金を70円に見直しました。

③2013年1月15日の決算日の基準価額が9,613円だったため、以降6ヵ月間の分配金は100円に決定しました。

※上記は過去の実績のイメージ図であり、将来の分配金のお支払いおよびその金額について示唆・保証するものではありません。なお、分配対象額(分配可能原資)は運用状況等により変動しますので、上記のような運営ができないことがあります。また、基準価額水準等によっても上記のような運営ができないことがあり、適宜分配金額を見直す場合があります。

市況動向、資金動向等によっては、前記の運用を行うことができない場合があります。

[世界株式投資の特徴]

- 世界株式市場は、さまざまな経済・金融の変化を受けて変動します。

<世界株式の推移(過去20年間)>



※世界株式は、MSCIワールドインデックス(配当込み、現地通貨ベース)を示しています。

(出所:トムソン・ロイター・データストリーム)

- 世界株式市場の騰落率上位国は年毎に入れ替わる傾向があり、一国集中で投資すると変動が大きくなる可能性があります。

<世界の株式市場の騰落率上位国推移>

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年*
1	オーストラリア 26.8%	日本 44.7%	スペイン 34.3%	ドイツ 22.6%	英国 △28.5%	スペイン 40.6%	スウェーデン 26.9%	米国 2.0%	ドイツ 30.1%	日本 33.9%
2	イタリア 24.3%	スイス 35.8%	オーストラリア 23.3%	オーストラリア 16.5%	カナダ △31.4%	オーストラリア 37.0%	ドイツ 16.9%	英国 △1.8%	香港 28.0%	スイス 19.4%
3	カナダ 13.8%	フランス 22.4%	ドイツ 22.4%	スペイン 12.5%	スイス △34.1%	カナダ 33.6%	米国 15.4%	世界株式 △5.0%	日本 21.8%	米国 15.2%
4	世界株式 11.8%	ドイツ 27.4%	フランス 21.1%	カナダ 10.5%	スペイン △37.0%	フランス 29.1%	カナダ 14.9%	スイス △5.7%	フランス 20.9%	世界株式 14.8%
5	英国 11.5%	カナダ 25.6%	イタリア 19.9%	英国 6.6%	オーストラリア △37.0%	英国 27.7%	英国 12.2%	スペイン △8.2%	オーストラリア 20.8%	スウェーデン 14.0%
6	日本 10.9%	オーストラリア 25.6%	スイス 18.8%	米国 6.0%	米国 △37.1%	米国 27.1%	世界株式 10.6%	カナダ △10.0%	スイス 18.9%	英国 13.4%
7	米国 10.7%	スペイン 20.9%	カナダ 17.9%	世界株式 5.2%	フランス △39.7%	世界株式 26.5%	フランス 3.5%	オーストラリア △10.8%	スウェーデン 17.1%	フランス 11.1%
8	フランス 10.6%	英国 20.1%	世界株式 16.1%	フランス 2.8%	世界株式 △38.3%	イタリア 24.0%	スイス 1.8%	フランス △13.2%	世界株式 16.4%	ドイツ 10.0%
9	ドイツ 8.3%	イタリア 18.8%	米国 15.3%	スイス △1.6%	日本 △42.5%	スイス 23.0%	日本 0.7%	スウェーデン △13.4%	米国 16.1%	オーストラリア 8.7%
10	スイス 6.3%	世界株式 16.3%	英国 14.6%	イタリア △3.3%	ドイツ △42.7%	ドイツ 22.6%	オーストラリア 0.7%	ドイツ △14.7%	英国 10.2%	香港 4.5%
11	オランダ 5.1%	米国 5.7%	日本 7.3%	日本 △10.1%	イタリア △46.6%	日本 9.3%	スペイン △15.6%	日本 △18.6%	カナダ 7.5%	カナダ 2.9%

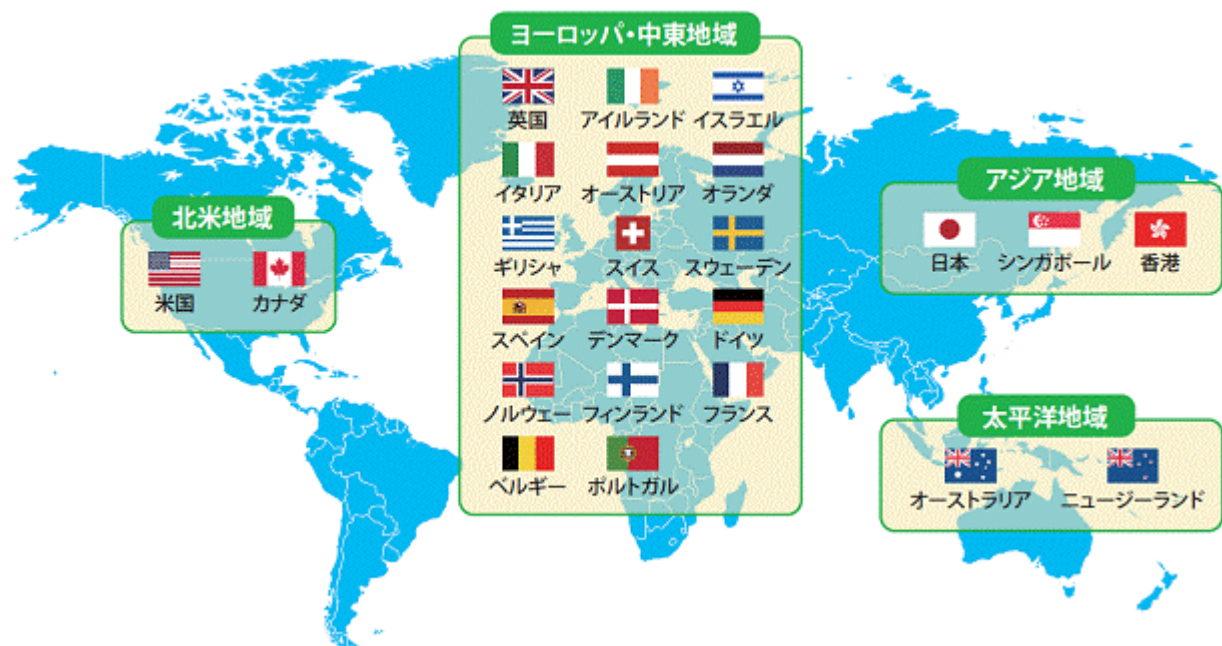
※上記は、各年末のMSCIワールドインデックスの構成国上位10カ国をもとに、各国別指数(配当込み、現地通貨ベース)の年間騰落率を上位順に示しています。また世界株式はMSCIワールドインデックス(配当込み、現地通貨ベース)を示しています。

(*2013年は5月末時点)

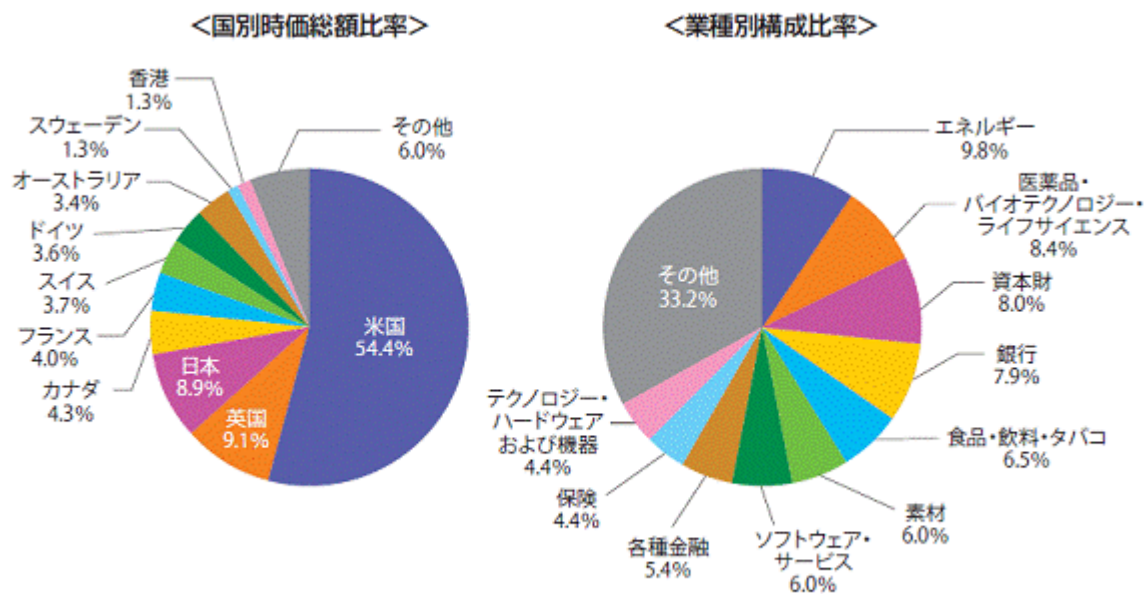
(出所:トムソン・ロイター・データストリーム)

[MSCIワールド・インデックスについて]

- MSCIワールド・インデックスは、先進国の株式市場全体を表す指数で、現在24カ国で構成されています。



- MSCIワールド・インデックスは、地域・国・業種・銘柄において幅広く分散された代表的な指数です。



(出所:MSCI, 2013年5月末時点)

収益分配金に関する留意事項

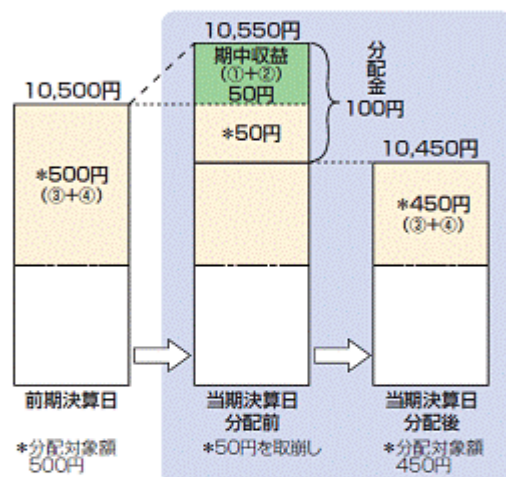
- 収益分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



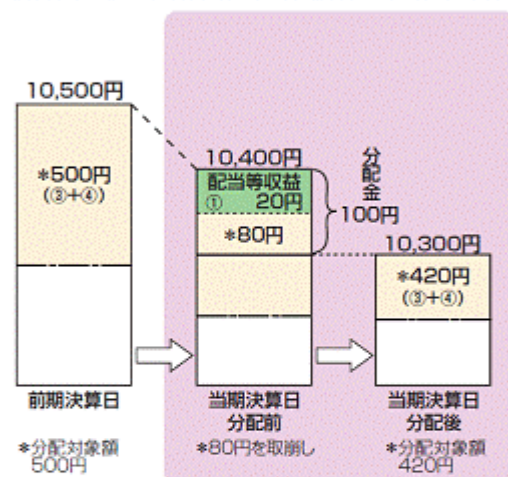
- 収益分配金は、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合

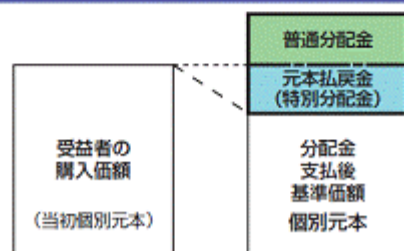


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※ 上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

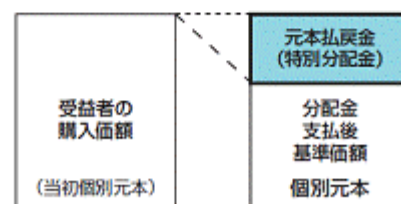
- 受益者のファンドの購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(受益者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

信託金限度額

1,000億円を限度として信託金を追加することができます。ただし、委託会社は受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

（２）【ファンドの沿革】

平成10年11月12日 ファンドの信託契約締結、設定、運用開始

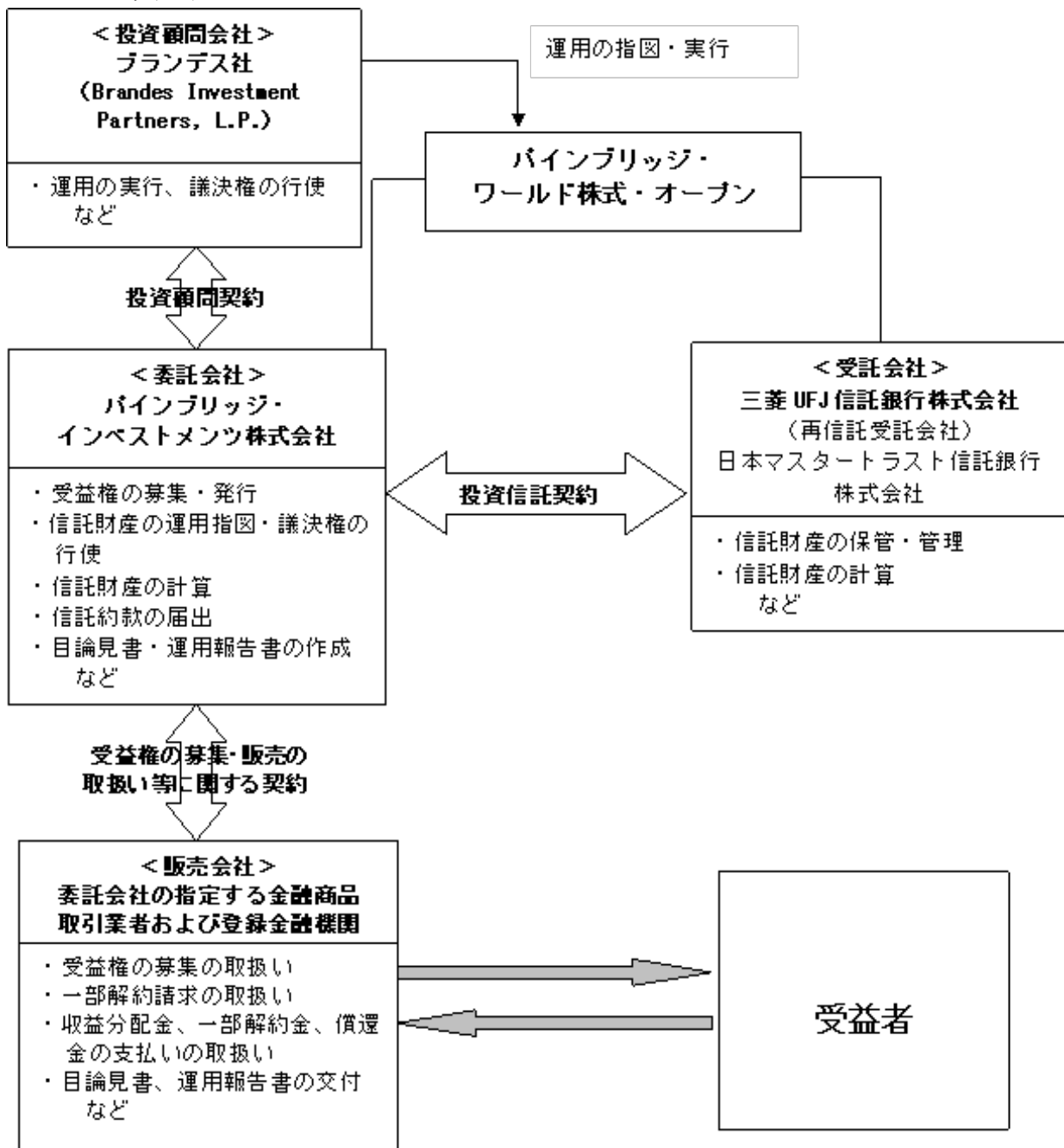
平成13年 7月 1日 ファンドの名称変更（「AIMIC ワールド株式・オープン」を「AIG ワールド株式・オープン」に変更）

平成21年12月 1日 ファンドの名称変更（「AIG ワールド株式・オープン」を「パインブリッジ・ワールド株式・オープン」に変更）

平成22年 7月16日 運用の指図権の一部をブランドス・インベストメント・パートナーズ・エルピーに委託開始、収益分配の時期を年2回決算から毎月決算に変更

（３）【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み



投資信託契約とは、投資信託を運営するルールを委託会社と受託会社との間で規定したもので、信託財産の運用や管理・運営方法、委託会社と受託会社および受益者の権利義務関係、募集および換金方法等の取り決め等が定められています。

受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約とは、委託会社と販売会社との間で締結された契約で、販売会社の行う受益権の募集、一部解約請求、収益分配金および償還金の支払い等の取扱い等が規定されています。

投資顧問契約とは、委託会社と委託会社が信託財産の運用に関する指図権を委託するものとの間に締結する契約で、信託財産の運用委託権限の範囲、議決権の行使、発注権限、運用状況の報告内容、報酬等が定められています。

委託会社の概況

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社は、世界各地に拠点を持つ独立系資産運用グループ「PineBridge Investments」の一員として、主に個人投資家に対する投資信託業務と年金基金・機関投資家等に対する投資一任・助言業務を展開しております。

・資本金の額 500,000,000円（平成25年5月末日現在）

・会社の沿革

昭和61年11月 当社の前身であるエーアイジー・オーバーシーズ・ファイナンス・ジャパン株式会社設立。

昭和62年 1月 エイアイジー投資顧問株式会社に名称変更。

平成 9年 2月 エイミック投信投資顧問株式会社に名称変更。

平成13年 7月 エイアイジー投信投資顧問（AIG投信投資顧問）株式会社に名称変更。

平成14年 4月 株式会社千代田投資顧問と合併。

平成19年 4月 AIGインベストメントマネジメント投資顧問株式会社との事業統合。

平成20年 4月 AIGインベストメンツ株式会社に名称変更。

平成20年 5月 エイアイジー・ジャパン・セキュリティーズ・インク（AIG日本証券会社）との事業統合。

平成21年12月 パインブリッジ・インベストメンツ株式会社に名称変更。

・大株主の状況（平成25年5月末日現在）

株主名	住 所	持株数	持株比率
PineBridge Investment Holdings B.V.	Prins Bernhardplein 200 1097 JB Amsterdam The Netherlands	41,000株	100%

・当社が属するPineBridge Investmentsは、ニューヨークに本部を置くグローバルな資産運用グループです。世界各地の拠点で、投資チーム・顧客サービスチームのプロフェッショナルが、世界中に広がるネットワークを活用し、資産の運用管理に専念しております。

2【投資方針】

（１）【投資方針】

基本方針

当ファンドは、世界各国の株式へ投資することにより、長期的に信託財産の成長を目指します。

運用方法

- 1）世界各国（エマージングカントリーを含みます。）の株式市場を投資対象として、バリュアプローチによって、本源的価値を下回った価格で取引されている割安銘柄の発掘に努め、厳選して投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。
- 2）実際の運用にあたっては、ブランデス・インベストメント・パートナーズ・エルピー（Brandes Investment Partners, L.P.）に運用の指図に関する権限の一部を委託します。
- 3）外貨建て資産については基本的には対円での為替ヘッジを行わない方針ですが、為替動向により円高が見込まれる場合には、為替ヘッジを行うこともあります。
- 4）有価証券等の価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、国内において行われる有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨にかかる先物取引、通貨にかかる選択権取引、金利にかかる先物取引および金利にかかるオプション取引ならびに外国の市場における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨にかかる先物取引、通貨にかかる先物オプション取引、金利にかかる先物取引および金利にかかるオプション取引と類似の取引（以下「有価証券先物取引等」といいます。）を行うことができます。
- 5）信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）ならびに金利先渡し取引および為替先渡し取引を行うことができます。
- 6）当ファンドはMSCIワールド・インデックス（円ベース）をベンチマークとし、これを上回る投資成果を目指して積極的な運用を行います。

市況動向、資金動向等によっては、前記の運用を行うことができない場合があります。

（２）【投資対象】

投資有価証券の範囲

委託会社は、信託金を、主として次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- 1．株券または新株引受権証券
- 2．国債証券
- 3．地方債証券
- 4．特別の法律により法人の発行する債券
- 5．社債券（新株引受権証券と社債券が一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
- 6．コマーシャル・ペーパー
- 7．外国または外国の者の発行する証券または証書で、前記1．から6．の証券または証書の性質を有するもの
- 8．新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。）および新株予約権証券（外国または外国の者が発行する証券または証書で、かかる性質を有するものを含みます。以下同じ。）
- 9．投資信託証券（外国の者が発行する証券で、投資信託証券の性質を有するものを含みます。ただし、クローズド・エンド型の会社型外国投資信託証券を除きます。以下同じ。）
- 10．外国の者の発行する証券または証書で、銀行業を営む者その他の金銭の貸付を業として行う者の貸付債権を信託する信託の受益権またはこれに類する権利を表示するもの（以下「外国貸付債権信託受益証券」といいます。）
- 11．外国法人が発行する譲渡性預金証書

12．銀行、信託会社その他政令で定める金融機関または主として住宅の取得に必要な長期資金の貸付けを業として行う者の貸付債権を信託する信託の受益権および外国法人に対する権利で同様の権利の性質を有するもの（以下「貸付債権信託受益権」といいます。）であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

13．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、前記1．の証券または証書および7．の証券または証書のうち1．の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、前記2．から5．までの証券および7．の証券または証書のうち2．から5．までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といいます。

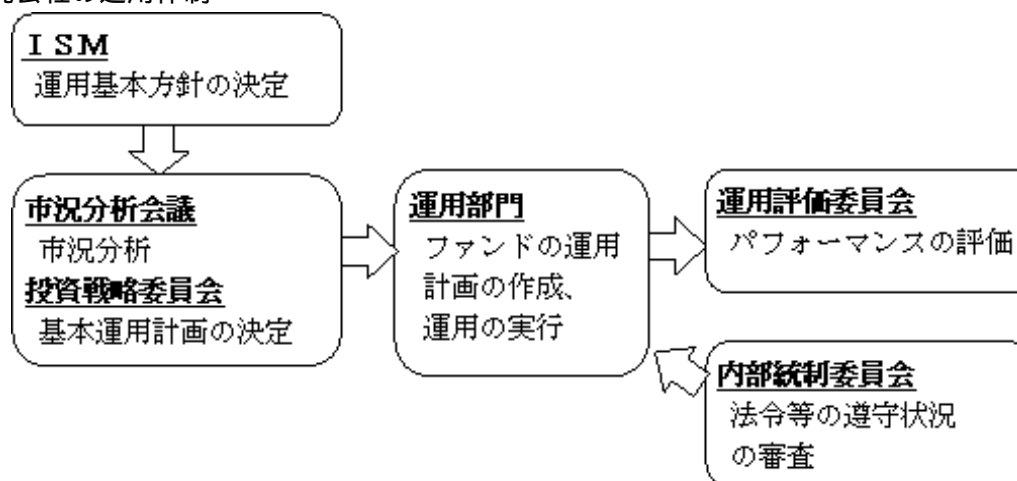
委託会社は、信託金を、前記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

- 1．預金
- 2．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- 3．コール・ローン
- 4．手形割引市場において売買される手形
- 5．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
- 6．外国の者に対する権利で前記5．の権利の性質を有するもの

前記 の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、前記 に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

（３）【運用体制】

委託会社の運用体制



１）運用基本方針の決定

- ・世界中の運用拠点の主要メンバーにより組織されているインベストメント・ストラテジー・ミーティング（ISM：Investment Strategy Meeting）で経済環境、投資戦略、市場リスク分析、各地域の景気サイクルなどの詳細な分析が行われ、株式・債券を中心にその他代替資産を含むPineBridgeとしての運用戦略の概要が決定されます。

２）運用計画の決定と運用の実行

- ・月次で市況分析会議を行い、ISMの議論・決定を参考に、ハウスビュー（内外経済見通し、内外債券見通し、内外株式見通し、為替見通し）について議論を行います。
- ・月1回の投資戦略委員会で、市況分析会議で議論されたハウスビューをベースに月次基本運用計画およびその前提となる見通し・投資方針（デュレーション・イールドカーブ・業種配分方針、為替見通し、国内株式市場の見通し、アセットアロケーション方針等）が決定されます。
- ・運用部門（14名）のファンドマネジャーは、月次基本運用計画に基づき、ファンド毎の月次運用計画を作成し、具体的なポートフォリオを構築、運用を実行します。

３）パフォーマンス評価とリスク管理

- ・運用業務部（8名）において運用実績の分析・評価を行い、運用評価委員会に上程します。
- ・法務コンプライアンス部（4名）において運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。
- ・運用評価委員会および内部統制委員会において、パフォーマンス評価と法令等の遵守状況の審査が行われます。

４）ファンドの関係法人に対する管理体制

- ・ファンドの受託会社に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などの信託財産の管理業務を通じて、信託事務の正確性・迅速性・システム対応力等を総合的に検証しています。また、受託会社より、内部統制の有効性についての報告書を受取っています。
- ・ファンドの運用に関する権限の委託先に対しては、担当部署において外部委託先が行った日々の約定の確認を行うとともに、法務コンプライアンス部において運用状況のモニタリングを行い、必要に応じて改善を求めます。

当社は、運用の適正化および投資者保護を目的として、社内規程等で信託財産の運用にあたって必要な事項を定めております。

前記の運用体制等は平成25年5月末日現在のものであり、今後変更することがあります。

ブランドス社の運用体制

- １）アナリストにより詳細な調査・分析が行われ、本質的価値の把握に努めます。また、調査・分析結果を投資委員会へ提示します。
 - ２）投資委員会において、本質的価値の承認が行われ、投資判断が決定されます。
 - ３）投資委員会で決定された投資判断に基づき、トレーダーにより売買が執行されます。
- 前記の運用体制等は、今後変更することがあります。

（４）【分配方針】

毎月15日（休業日の場合は翌営業日）に、原則として次のとおり収益分配を行う方針です。

- 1）分配対象額は、経費控除後の利子等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- 2）分配金額は、基準価額の水準、市況動向、運用状況等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。
- 3）留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき元本部分と同一の運用を行います。

信託財産から生じる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

- 1）配当金、利子、貸付有価証券にかかる品貸料およびこれ等に類する収益から支払利息を控除した額は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬に対する消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
- 2）売買損益に評価損益を加減した利益金額（以下「売買益」といいます。）は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬に対する消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積み立てることができます。
- 3）毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

収益分配金の支払い

- 1）収益分配金は、毎決算日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日まで）から、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）に支払います。
- 2）前記1）の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎決算日の翌営業日に、収益分配金が販売会社に交付されます。この場合、販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。当該売付により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。
- 3）前記1）に規定する収益分配金の支払いは、販売会社の営業所等において行うものとします。
- 4）受託会社は、収益分配金については原則として毎決算日の翌営業日に、その全額を委託会社の指定する預金口座等に払い込みます。受託会社は、委託会社の指定する預金口座等に収益分配金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

（５）【投資制限】

・ 信託約款上の投資制限

株式への投資には制限を設けません。

外貨建て資産への投資割合には制限を設けません。

委託会社は、取得時において信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

委託会社は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託会社は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外

国金融商品市場をいいます。以下同じ。）に上場されている株式の発行会社の発行するもの、取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。ただし、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託会社が投資することを指図することができるものとします。

信用取引の指図範囲

- 1) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
- 2) 前記1)の信用取引の指図は、次に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行うことができるものとし、かつ次に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。
 1. 信託財産に属する株券および新株引受権証券の権利行使により取得する株券
 2. 株式分割により取得する株券
 3. 有償増資により取得する株券
 4. 売り出しにより取得する株券
 5. 信託財産に属する転換社債の転換請求、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）の新株予約権の行使により取得可能な株券
 6. 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権の行使、ならびに信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債券の新株予約権（前記5.に定めるものを除きます。）の行使により取得可能な株券

先物取引等の運用指図

- 1) 委託会社は、信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとします。（以下同じ。）
 1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券（以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。）の時価総額の範囲内とします。
 2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額（組入ヘッジ対象有価証券を差し引いた額）に信託財産が限月までに受取る組入公社債、組入外国貸付債権信託受益証券および組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額を限度とし、かつ信託財産が限月までに受取る組入有価証券にかかる利払金および償還金等ならびに前記（2）投資対象 に掲げる金融商品で運用している額の範囲とします。
 3. コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は、本項 で規定する全オプション取引にかかる支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。
- 2) 委託会社は、信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨にかかる先物取引ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引および先物オプション取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。
 1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、為替の売予約と合せてヘッジの対象とする外貨建資産の時価総額の範囲内とします。
 2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、為替の買予約と合せて、外貨建有価証券の買付代金等実需の範囲内とします。

3. コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は、支払プレミアム額の合計額が取引時点の保有外貨建資産の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、かつ本項で規定する全オプション取引にかかる支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。
- 3) 委託会社は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。
1. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする金利商品（信託財産が1年以内に受取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに前記（2）投資対象に掲げる金融商品で運用されているものをいい、以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。）の時価総額の範囲内とします。
 2. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受取る組入有価証券にかかる利払金および償還金等ならびに前記（2）投資対象に掲げる金融商品で運用している額（以下「金融商品運用額等」といいます。）の範囲内とします。ただし、ヘッジ対象金利商品が外貨建で、信託財産の外貨建資産組入可能額（約款上の組入可能額から保有外貨建資産の時価総額を差し引いた額、以下同じ。）に信託財産が限月までに受取る外貨建組入公社債、組入外国貸付債権信託受益証券および外貨建組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額が当該金融商品運用額等より少ない場合には外貨建資産組入可能額に信託財産が限月までに受取る外貨建組入有価証券にかかる利払金および償還金等を加えた額を限度とします。
 3. コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は、支払いプレミアム額の合計額が取引時点のヘッジ対象金利商品の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、かつ本項で規定する全オプション取引にかかる支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

スワップ取引の運用指図

- 1) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを避けるため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。
- 2) スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として当ファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- 3) スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の合計額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は、すみやかにその超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。
- 4) スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- 5) 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図をするものとします。

金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図

- 1) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- 2) 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として当ファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

- 3) 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかる金利先渡取引または為替先渡取引の想定元本の合計額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、純資産総額が減少して、金利先渡取引または為替先渡取引の想定元本の合計額が純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は、速やかに、その超える額に相当する金利先渡取引または為替先渡取引の一部の解約を指図するものとします。
- 4) 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- 5) 委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

同一銘柄の転換社債等への投資制限

委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

有価証券の貸付の指図

- 1) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。
 1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
 2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- 2) 前記1) 1. および2. に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- 3) 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

外国為替予約の指図

委託会社は、信託財産に属する外貨建資産について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

資金の借入れ

- 1) 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、信託財産において一部解約金の支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または、再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- 2) 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- 3) 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- 4) 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

・法令上の投資制限

同一法人の発行する株式への投資制限（投資信託及び投資法人に関する法律）

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図しないものとします。

デリバティブ取引にかかる投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令）

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

（１）当ファンドのリスク

当ファンドは、主として世界各国の株式など値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、当ファンドは預貯金とは異なり、元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。これらの運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属しますので、お申込みにあたりましては、当ファンドの内容・リスクを十分ご理解のうえ、お申込みください。

当ファンドの有する主なリスクは、以下の通りです。

価格変動リスク

当ファンドが投資する株式は、一般に、経済・社会情勢、発行企業の信用状況、経営・財務状況ならびに市場の需給等の影響を受け変動します。組入銘柄の価格の下落は、当ファンドの基準価額を下げる要因となります。

為替変動リスク

当ファンドは外貨建て資産に投資しますので、為替変動リスクを伴います。外国為替相場は各国の金利動向、政治・経済情勢その他要因により変動します。この影響を受け外貨建て資産の価値が変動し、基準価額が下落することがあります。一般に、円安は基準価額の上昇要因に、円高は基準価額の下落要因となります。

カントリーリスク

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合等には、当該投資対象国・地域へ投資する資産の価値の大幅な下落や投資資金の回収が制限される場合があります。これらの影響を受け基準価額が下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。当ファンドの投資対象国には、これらの支障が生じる可能性が先進国に比べ相対的に高い国・地域（いわゆるエマージング諸国）が含まれています。エマージング諸国への投資には、先進国と比べて相対的に大きなカントリーリスクが伴います。

流動性リスク

組入有価証券等を売買しようとする場合に当該有価証券等の需給状況により、希望する時期および価格で売買できないリスクをいいます。この影響を受け基準価額が下落する要因になることがあります。

信用リスク

組入有価証券等の発行体および取引の相手先の倒産や財務状況の悪化等の理由による価格の下落、利息・配当・償還金の支払不能または債務不履行等の影響を受け基準価額が下落することがあります。

その他のリスク・留意点

１．カウンターパーティーリスク

当ファンドは、証券取引、為替取引等の相対取引を行うことがありますが、これには取引相手方の決済不履行リスクが伴います。

２．有価証券先物等に伴うリスク

当ファンドは、有価証券先物取引等を利用することがありますので、このような場合にはファンドの

基準価額は有価証券先物等の価格変動の影響を受けます。

3. 解約によるファンドの資金流出に伴うリスク

解約によるファンドの資金流出に伴い、保有有価証券を大量に売却しなければならないことがあります。その際には、市況動向や市場の流動性等の状況によって基準価額が大きく下落することがあります。

4. 資産規模に関するリスク

当ファンドの資産規模によっては、運用方針に基づく運用が効率的にできない場合があります。

5. 収益分配に関わるリスク

当ファンドは、毎決算期に収益分配方針にしたがい分配を行います。ただし、委託会社の判断により、分配が行われないこともあります。また、基準価額が元本を下回っていても、分配が行われる場合があります。

6. 繰上償還に関わるリスク

当ファンドは、受益権の総口数が5億口を下回った場合には、繰上償還されることがあります。

7. 取得申込、解約請求等に関する留意点

当ファンドは、ニューヨーク証券取引所の休業日と同じ日付の場合には、取得申込および解約請求の受付は行いません。なお、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、委託会社の判断で取得申込および解約請求の受付を中止することがあります。また、すでに受付けた取得申込および解約請求を取消することがあります。

8. ベンチマークに関する留意点

当ファンドは、MSCIワールド・インデックス（円ベース）をベンチマーク（ファンドの運用成果を判断するための基準となる指標）として使用しますが、ベンチマークはファンドの運用成果そのものを表わすものではありません。また、当ファンドは特定の株価指標等に投資成果が連動する性格のファンド（いわゆる「インデックス・ファンド」）ではありません。

9. 収益分配金に関する留意点

収益分配は、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて行う場合があります。したがって、収益分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。また、投資者の個別元本の状況によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的に元本の一部戻しに相当する場合があります。なお、収益分配金はファンドの純資産から支払われますので、分配金の支払いは純資産総額の減少につながり、基準価額の下落要因となります。計算期間中の運用収益を超えて分配を行った場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

10. その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

（2）投資リスクに対する管理体制

1）委託会社のリスク管理体制

運用業務部

運用資産にかかる運用リスクの低減および顕在化の防止に努めます。

また、運用実績の分析および評価を行い運用評価委員会に上程します。

法務コンプライアンス部

運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。

また、適正なるコンプライアンスを実現するための施策を行います。

内部統制委員会

月1回開催、法務コンプライアンス部の報告に基づき、諸法令等の遵守状況についての審議および体制整備等の適正な運用に資する対応を図ります。

運用評価委員会

月1回以上開催し、運用実績の分析および評価を総合的に審議し、必要に応じて運用改善のための対応を図ります。

2) プランデス社のリスク管理体制

定期的に投資委員会を開催し、運用の意思決定をすべて投資委員会に集約させることで、より精度の高い銘柄選択を行うことがリスクの低減につながると考えています。また、投資ガイドライン・制約に則って運用がなされているかを定期的にモニターしています。日次および週次の例外レポートにて、コンプライアンス上問題となりうる案件かどうか特定できるようになっています。同社では、運用監視委員会（インベストメント・オーバービュー・コミッティー）を設け、ポートフォリオ運用が企業哲学を反映し、運用プロセス通りに実行されているかの確認を行います。

前記リスク管理体制等は、今後変更することがあります。

4【手数料等及び税金】

（１）【申込手数料】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に3.15%（税抜3.0%）の率を乗じて得た額を上限とし、販売会社がそれぞれ独自に定めるものとします。（申込手数料は、当該手数料にかかる消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）に相当する額を含みます。以下同じ。）

ただし、収益分配金を再投資する場合は、申込手数料はかかりません。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <http://www.pinebridge.co.jp/>

（２）【換金（解約）手数料】

換金（解約）手数料はありません。

（３）【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.785%（税抜年1.70%）の率を乗じて得た金額とします。委託会社、受託会社および販売会社の分配についての内訳は次の通りです。（信託報酬は、当該報酬にかかる消費税等に相当する額を含みます。以下同じ。）

信託報酬	1.785%（税抜1.70%）
委託会社	0.945%（税抜0.90%）
販売会社	0.735%（税抜0.70%）
受託会社	0.105%（税抜0.10%）

委託会社の受取る報酬には、当ファンドの運用指図権の委託先である投資顧問会社への報酬、信託財産の計算に関する委託会社の事務代行を行う会社への事務代行手数料、信託財産の財務諸表の監査を行う監査法人に対する費用および目論見書・運用報告書の作成等に要する費用が含まれます。

信託報酬は、毎決算期末または信託終了のとき、信託財産中から支払います。

運用の権限の委託先への報酬は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年0.495%以内の率を乗じて得た額とし、毎決算期末または信託終了のとき、委託会社が受取る報酬の中から支払います。

（４）【その他の手数料等】

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息を信託財産中から支払います。

ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料は、信託財産が負担します。このほか、売買委託手数料に対する消費税等相当額および先物取引・オプション取引等に要する費用についても信託財産が負担します。

信託財産に属する有価証券等の保管を外国の金融機関に委任する場合の保管費用についても信託財産が負担します。

信託財産において一部解約および分配金の再投資に伴う支払資金の手当て等を目的として資金借入の指図を行った場合、当該借入金の利息を信託財産から支払います。

その他の手数料等は、事前に計算できないため、その総額や計算方法を記載しておりません。

（１）から（４）の費用・手数料等には、保有期間に応じて異なるものや、事前に計算できないものが含まれているため、その合計額、上限額、計算方法等を表示することはできません。

（５）【課税上の取扱い】

当ファンドは課税上は株式投資信託として取扱われます。

個人の受益者に対する課税

普通分配金については、10.147%（所得税7.147%および地方税3%）の税率による源泉徴収が行われ、原則として確定申告の必要はありません。なお、確定申告をして、申告分離課税もしくは総合課税のいずれかを選択することも可能です。前記10.147%の税率は、平成26年1月1日からは20.315%（所得税15.315%および地方税5%）となります。

一部解約時および償還時の差益については、申告分離課税が適用され、10.147%（所得税7.147%および地方税3%）の税率となります。前記10.147%の税率は、平成26年1月1日からは20.315%（所得税15.315%および地方税5%）となります。

法人の受益者に対する課税

普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、7.147%の所得税が源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。なお、前記7.147%の税率は、平成26年1月1日からは15.315%（所得税15.315%）となります。

原則として、益金不算入制度の適用はありません。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、平成26年1月1日以降の非課税制度です。NISAをご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

注1 個別元本について

追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。なお、個別元本方式は平成12年4月1日より適用されておりますので、それ以前に受益権を保有していた場合、平成12年3月31日の平均信託金が当該受益権にかかる個別元本となります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、原則として個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については各販売会社毎に、個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合は当該支店等毎に、個別元本の算出が行われる場合があります。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

注2 元本払戻金（特別分配金）について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

受益者が収益分配金を受取る際、

当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。

当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

前記は平成25年5月末のもので、税法が改正された場合等においては、税率等の課税上の取扱いが変更になることがあります。
税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご相談されることをお勧めします。

5【運用状況】

(1)【投資状況】

(平成25年5月31日現在)

資産の種類	国名	時価合計（円）	投資比率（％）
株式	アメリカ	640,092,796	33.71
	日本	290,067,000	15.28
	イギリス	181,875,436	9.58
	フランス	181,123,389	9.54
	オランダ	84,797,445	4.47
	イタリア	84,404,996	4.45
	スイス	69,882,128	3.68
	アイルランド	37,001,506	1.95
	ブラジル	31,010,191	1.63
	ドイツ	30,331,929	1.60
	マレーシア	26,725,658	1.41
	スウェーデン	25,971,484	1.37
	ロシア	23,441,989	1.23
	メキシコ	22,027,460	1.16
	韓国	19,256,798	1.01
	スペイン	13,630,500	0.72
	小 計	1,761,640,705	92.78
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		137,004,746	7.22
合計（純資産総額）		1,898,645,451	100.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計の比率です。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

1. 組入上位30銘柄（平成25年5月31日現在）

国/ 地域	種 類	銘柄名	業種	数量	帳簿価額 単価 （円）	帳簿価額 金額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 金額 （円）	投資 比率 （％）
アメリカ	株式	MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	16,500	3,391.55	55,960,634	3,544.33	58,481,534	3.08
アメリカ	株式	PEPSICO INC	食品・飲料・タバコ	6,390	8,448.52	53,986,106	8,217.83	52,511,995	2.77
アメリカ	株式	WESTERN DIGITAL CORP	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	8,040	5,990.86	48,166,577	6,454.27	51,892,348	2.73
アメリカ	株式	CHESAPEAKE ENERGY CORP	エネルギー	21,850	2,100.49	45,895,855	2,279.58	49,808,940	2.62
アメリカ	株式	WELLS FARGO & COMPANY	銀行	10,923	3,921.73	42,837,131	4,173.67	45,589,052	2.40
フランス	株式	GDF SUEZ	公益事業	21,399	2,184.85	46,753,632	2,117.95	45,322,183	2.39
フランス	株式	TOTAL SA	エネルギー	8,600	5,143.14	44,231,012	5,198.56	44,707,652	2.35
イギリス	株式	BP PLC	エネルギー	56,400	722.17	40,730,570	736.86	41,559,410	2.19
アメリカ	株式	CITIGROUP INC	各種金融	7,439	5,068.10	37,701,642	5,389.85	40,095,158	2.11
日本	株式	日本電信電話	情報・通信業	7,900	5,550.00	43,845,000	5,050.00	39,895,000	2.10

フランス	株式	CARREFOUR SA	食品・生活必需品小売り	12,212	3,078.62	37,596,190	3,056.85	37,330,293	1.97
スイス	株式	TE CONNECTIVITY LTD	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	8,105	4,520.72	36,640,455	4,568.27	37,025,885	1.95
アイルランド	株式	CRH PLC	素材	16,737	2,176.08	36,421,091	2,210.76	37,001,506	1.95
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	6,000	6,440.00	38,640,000	6,010.00	36,060,000	1.90
イタリア	株式	ENI SPA	エネルギー	15,200	2,494.04	37,909,468	2,354.16	35,783,329	1.88
イギリス	株式	GLAXOSMITHKLINE PLC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	13,100	2,611.31	34,208,252	2,652.91	34,753,162	1.83
アメリカ	株式	PFIZER INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	11,910	2,974.69	35,428,581	2,858.33	34,042,769	1.79
オランダ	株式	KONINKLIJKE AHOLD NV	食品・生活必需品小売り	19,940	1,616.50	32,233,209	1,682.48	33,548,850	1.77
イギリス	株式	ASTRAZENECA PLC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	6,300	5,149.45	32,441,569	5,298.12	33,378,177	1.76
イギリス	株式	MARKS & SPENCER GROUP PLC	小売	45,214	647.97	29,297,602	732.86	33,135,685	1.75
スイス	株式	SWISS RE AG	保険	4,400	7,806.75	34,349,708	7,467.32	32,856,243	1.73
アメリカ	株式	STATE STREET CORP	各種金融	4,800	6,434.03	30,883,373	6,798.28	32,631,764	1.72
アメリカ	株式	BANK OF AMERICA CORP	各種金融	23,309	1,349.74	31,461,117	1,399.31	32,616,735	1.72
アメリカ	株式	CORNING INC.	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	20,435	1,571.32	32,110,034	1,577.39	32,234,091	1.70
ドイツ	株式	DEUTSCHE TELEKOM AG	電気通信サービス	25,500	1,207.43	30,789,567	1,189.48	30,331,929	1.60
フランス	株式	FRANCE TELECOM SA	電気通信サービス	26,412	1,098.43	29,011,865	1,070.06	28,262,519	1.49
マレーシア	株式	GENTING MALAYSIA BERHAD	消費者サービス	208,100	127.43	26,520,076	128.42	26,725,658	1.41
イギリス	株式	MORRISON <WM.> SUPERMARKETS	食品・生活必需品小売り	62,200	444.54	27,650,459	424.12	26,380,710	1.39
アメリカ	株式	KROGER CO	食品・生活必需品小売り	7,500	3,521.06	26,407,980	3,479.58	26,096,851	1.37
スウェーデン	株式	ERICSSON LM-B SHS	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	21,200	1,260.49	26,722,388	1,225.07	25,971,484	1.37

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価額の比率です。

（注2）外貨建て資産に属する銘柄の帳簿価額・評価額は、対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

2. 種類別及び業種別比率（平成25年5月31日現在）

種類	国内 / 外国	業種	投資比率（％）
株式	国内	医薬品	3.46
		輸送用機器	3.09
		保険業	3.06
		銀行業	2.22
		情報・通信業	2.10
		電気機器	1.34
	外国	エネルギー	10.29
		医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	8.99
		テクノロジー・ハードウェアおよび機器	8.75
		食品・生活必需品小売り	8.32
		電気通信サービス	7.13
		各種金融	6.83
		銀行	5.24
		食品・飲料・タバコ	4.10
		保険	3.10
		ソフトウェア・サービス	3.08
		公益事業	2.39
		素材	1.95
		小売	1.75
		消費者サービス	1.41
		半導体・半導体製造装置	1.27
		自動車・自動車部品	1.01
		資本財	0.99
		メディア	0.92
	合計		92.78

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類及び業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

（３）【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額（円）		基準価額（円）	
第10期末	（分配付）	3,322,730,631	（分配付）	12,619
（平成15年10月15日）	（分配落）	3,298,216,701	（分配落）	12,519
第11期末	（分配付）	3,554,685,436	（分配付）	14,342
（平成16年4月15日）	（分配落）	3,530,934,834	（分配落）	14,242
第12期末	（分配付）	3,280,096,760	（分配付）	14,110
（平成16年10月15日）	（分配落）	3,280,096,760	（分配落）	14,110
第13期末	（分配付）	2,071,225,468	（分配付）	15,395
（平成17年4月15日）	（分配落）	2,058,483,048	（分配落）	15,295
第14期末	（分配付）	1,969,370,530	（分配付）	17,223
（平成17年10月17日）	（分配落）	1,958,705,319	（分配落）	17,123
第15期末	（分配付）	2,121,469,637	（分配付）	19,265
（平成18年4月17日）	（分配落）	2,111,111,498	（分配落）	19,165
第16期末	（分配付）	2,284,785,194	（分配付）	21,646
（平成18年10月16日）	（分配落）	2,264,965,554	（分配落）	21,446
第17期末	（分配付）	2,676,481,481	（分配付）	24,441
（平成19年4月16日）	（分配落）	2,666,187,887	（分配落）	24,341
第18期末	（分配付）	2,619,166,517	（分配付）	25,204
（平成19年10月15日）	（分配落）	2,599,592,928	（分配落）	25,004
第19期末	（分配付）	1,610,994,359	（分配付）	17,560
（平成20年4月15日）	（分配落）	1,610,994,359	（分配落）	17,560
第20期末	（分配付）	1,048,862,742	（分配付）	12,345
（平成20年10月15日）	（分配落）	1,048,862,742	（分配落）	12,345
第21期末	（分配付）	790,345,357	（分配付）	9,788
（平成21年4月15日）	（分配落）	790,345,357	（分配落）	9,788
第22期末	（分配付）	963,942,885	（分配付）	11,999
（平成21年10月15日）	（分配落）	955,964,648	（分配落）	11,899
第23期末	（分配付）	1,066,964,603	（分配付）	13,026
（平成22年4月15日）	（分配落）	1,058,773,785	（分配落）	12,926
第24特定期間末	（分配付）	904,703,567	（分配付）	10,942
（平成22年10月15日）	（分配落）	879,907,639	（分配落）	10,642
第25特定期間末	（分配付）	1,363,573,757	（分配付）	11,816
（平成23年4月15日）	（分配落）	1,303,431,279	（分配落）	11,186
第26特定期間末	（分配付）	1,536,455,195	（分配付）	9,306
（平成23年10月17日）	（分配落）	1,442,694,114	（分配落）	8,676
第27特定期間末	（分配付）	1,527,957,201	（分配付）	9,315
（平成24年4月16日）	（分配落）	1,430,184,877	（分配落）	8,715
第28特定期間末	（分配付）	1,441,090,772	（分配付）	8,626
（平成24年10月15日）	（分配落）	1,339,457,537	（分配落）	8,026
第29特定期間末	（分配付）	1,778,410,345	（分配付）	11,565
（平成25年4月15日）	（分配落）	1,698,512,137	（分配落）	11,055
平成24年5月末		1,322,358,925		7,837
6月末		1,392,542,479		8,087
7月末		1,364,034,594		8,025
8月末		1,385,266,815		8,123

9月末	1,395,186,930	8,220
10月末	1,347,621,552	8,176
11月末	1,345,548,435	8,400
12月末	1,435,917,304	9,048
平成25年1月末	1,552,062,502	10,050
2月末	1,551,512,885	9,952
3月末	1,610,254,640	10,382
4月末	1,763,719,733	11,229
5月末	1,898,645,451	11,755

（注）当ファンドは平成22年7月16日付で約款変更を行い、年2回決算から毎月決算に変更しております。

【分配の推移】

期 間		1万口当たりの分配金
第10期	自 平成15年 4月16日	100円
	至 平成15年10月15日	
第11期	自 平成15年10月16日	100円
	至 平成16年 4月15日	
第12期	自 平成16年 4月16日	0円
	至 平成16年10月15日	
第13期	自 平成16年10月16日	100円
	至 平成17年 4月15日	
第14期	自 平成17年 4月16日	100円
	至 平成17年10月17日	
第15期	自 平成17年10月18日	100円
	至 平成18年 4月17日	
第16期	自 平成18年 4月18日	200円
	至 平成18年10月16日	
第17期	自 平成18年11月17日	100円
	至 平成19年 4月16日	
第18期	自 平成19年 4月17日	200円
	至 平成19年10月15日	
第19期	自 平成19年10月16日	0円
	至 平成20年 4月15日	
第20期	自 平成20年 4月16日	0円
	至 平成20年10月15日	
第21期	自 平成20年10月16日	0円
	至 平成21年 4月15日	
第22期	自 平成21年 4月16日	100円
	至 平成21年10月15日	
第23期	自 平成21年10月16日	100円
	至 平成22年 4月15日	
第24特定期間	自 平成22年 4月16日	300円
	至 平成22年10月15日	
第25特定期間	自 平成22年10月16日	630円
	至 平成23年 4月15日	

第26特定期間	自 平成23年 4月16日	630円
	至 平成23年10月17日	
第27特定期間	自 平成23年10月18日	600円
	至 平成24年 4月16日	
第28特定期間	自 平成24年 4月17日	600円
	至 平成24年10月15日	
第29特定期間	自 平成24年10月16日	510円
	至 平成25年 4月15日	

【収益率の推移】

期 間		収益率
第10期	自 平成15年 4月16日	23.8%
	至 平成15年10月15日	
第11期	自 平成15年10月16日	14.6%
	至 平成16年 4月15日	
第12期	自 平成16年 4月16日	0.9%
	至 平成16年10月15日	
第13期	自 平成16年10月16日	9.1%
	至 平成17年 4月15日	
第14期	自 平成17年 4月16日	12.6%
	至 平成17年10月17日	
第15期	自 平成17年10月18日	12.5%
	至 平成18年 4月17日	
第16期	自 平成18年 4月18日	12.9%
	至 平成18年10月16日	
第17期	自 平成18年11月17日	13.9%
	至 平成19年 4月16日	
第18期	自 平成19年 4月17日	3.5%
	至 平成19年10月15日	
第19期	自 平成19年10月16日	29.8%
	至 平成20年 4月15日	
第20期	自 平成20年 4月16日	29.7%
	至 平成20年10月15日	
第21期	自 平成20年10月16日	20.7%
	至 平成21年 4月15日	
第22期	自 平成21年 4月16日	22.6%
	至 平成21年10月15日	
第23期	自 平成21年10月16日	9.5%
	至 平成22年 4月15日	
第24特定期間	自 平成22年 4月16日	15.3%
	至 平成22年10月15日	
第25特定期間	自 平成22年10月16日	11.0%
	至 平成23年 4月15日	
第26特定期間	自 平成23年 4月16日	16.8%
	至 平成23年10月17日	

第27特定期間	自 平成23年10月18日	7.4%
	至 平成24年 4月16日	
第28特定期間	自 平成24年 4月17日	1.0%
	至 平成24年10月15日	
第29特定期間	自 平成24年10月16日	44.1%
	至 平成25年 4月15日	

（注）収益率は以下の計算式により算出しております。

収益率 = (当(特定)期末分配付基準価額 - 前(特定)期末分配落基準価額) ÷ 前(特定)期末分配落基準価額 × 100

（４）【設定及び解約の実績】

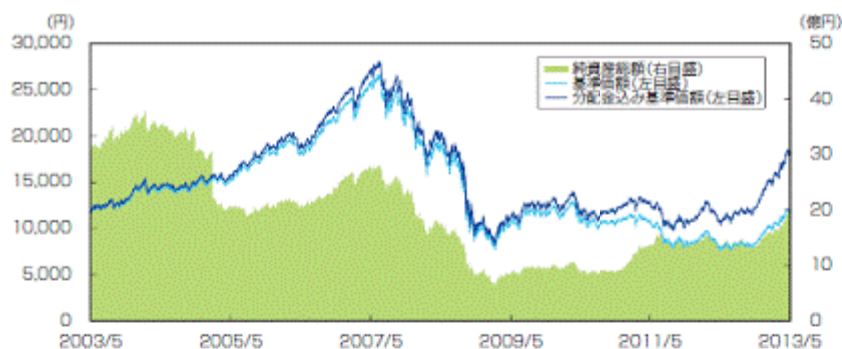
	設定口数	解約口数
第10期	341,791,874	349,476,091
第11期	166,854,730	322,108,828
第12期	135,348,526	290,036,032
第13期	114,172,106	1,092,897,090
第14期	209,158,770	411,096,249
第15期	196,282,528	238,664,280
第16期	146,135,028	191,572,297
第17期	199,903,293	160,668,529
第18期	106,296,895	161,958,227
第19期	63,297,254	185,527,174
第20期	67,044,085	134,838,621
第21期	69,555,793	111,756,389
第22期	35,905,875	39,934,151
第23期	44,457,473	28,800,708
第24特定期間	69,255,246	61,539,642
第25特定期間	438,686,162	100,286,880
第26特定期間	591,427,518	93,684,579
第27特定期間	293,524,828	315,471,982
第28特定期間	257,598,190	229,606,217
第29特定期間	230,097,505	362,688,515

（注）上記はすべて本邦内における設定、解約の実績口数です。

参考情報

基準価額・純資産の推移

(過去10年間／2003年5月末～2013年5月末)



(2013年5月末現在)

基準価額	11.755円
純資産総額	1,898百万円

※上記の分配金込み基準価額は、過去に支払った分配金を非課税で再投資したものと計算しています。

分配の推移

(1万口あたり、課税前)

2013年 5月	100円	2012年11月	70円
2013年 4月	100円	2012年10月	100円
2013年 3月	100円	2012年 9月	100円
2013年 2月	100円	2012年 8月	100円
2013年 1月	70円	2012年 7月	100円
2012年12月	70円	2012年 6月	100円

直近1年間累計	1,110円
設定来累計	4,620円

主要な資産の状況

(2013年5月末現在)

国名	銘柄名	業種	投資比率(%)
アメリカ	MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	3.08
アメリカ	PEPSICO INC	食品・飲料・タバコ	2.77
アメリカ	WESTERN DIGITAL CORP	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.73
アメリカ	CHESAPEAKE ENERGY CORP	エネルギー	2.62
アメリカ	WELLS FARGO & COMPANY	銀行	2.40
フランス	GDF SUEZ	公益事業	2.39
フランス	TOTAL SA	エネルギー	2.35
イギリス	BP PLC	エネルギー	2.19
アメリカ	CITIGROUP INC	各種金融	2.11
日本	日本電信電話	情報・通信業	2.10

※投資比率は純資産総額に対する比率です。

年間収益率の推移

(過去10年間／暦年ベース)



※ファンドの収益率は分配金込み基準価額を基に算出しています。また、2013年は年初から5月末までの騰落率を表示しています。

上記は過去の実績であり、将来の投資成果等をお約束するものではありません。
最新の運用状況は、委託会社または販売会社のホームページ等でご確認いただけます。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

1）取得申込の受付

受益権の取得申込は、販売会社の営業日に受付けます。ただし、ニューヨーク証券取引所の休業日と同じ日付の場合には、取得申込の受付は行いません。

取得申込の受付は、原則として販売会社の営業日の午後3時までとします。これら受付時間を過ぎてからの取得申込は翌営業日のお取扱いとなります。なお、受付時間は販売会社により異なる場合があります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <http://www.pinebridge.co.jp/>

取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込の受付を中止すること、およびすでに受付けた取得申込を取消することがあります。また、運用の基本方針等の観点から受益者にとって不利益と判断する場合には、委託会社の判断で取得申込を受付けない場合があります。

2）申込単位・申込価額

1．申込単位

収益分配金の受取方法により、収益分配金を受取る「分配金受取りコース」と分配金を税引き後再投資する「分配金再投資コース」の2つの申込コースがあります。取得申込時にいずれかの申込コースを選択いただきます。なお、原則として取得申込手続完了後の申込コースの変更はできません。いずれのコースでも、申込単位は販売会社が定めるものとします。なお、販売会社によっては、どちらか一方のコースのみのお取扱いとなる場合や、申込単位および取扱コースが異なる場合があります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

2．申込価額

受益権の申込価額は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、当該基準価額に3.15%（税抜3.0%）の率を乗じて得た額を上限とし、販売会社がそれぞれ独自に定める手数料を加算した価額とします。なお、収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、原則として毎決算日の基準価額とします。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。

2【換金（解約）手続等】

- 1．受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に1口単位をもって一部解約の実行を請求することができます。受益者が一部解約の実行請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行うものとします。なお、解約単位は、販売会社および販売会社の取扱コースにより異なる場合があります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <http://www.pinebridge.co.jp/>

- 2．一部解約の実行請求は、販売会社の営業日に受付けます。ただし、ニューヨーク証券取引所の休業日と同じ日付の場合には、一部解約の実行請求の受付は行いません。
- 3．解約請求の受付は、原則として販売会社の営業日の午後3時までとします。これら受付時間を過ぎてからの解約請求は翌営業日のお取扱いとなります。なお、受付時間は販売会社により異なる場合があります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。
- 4．一部解約の価額は、一部解約の実行請求を受付けた日の翌営業日の基準価額とします。
- 5．委託会社は、取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得な

い事情があるときは、一部解約の実行請求の受付を中止することができます。

6. 一部解約の実行請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行請求を受付けたものとして前記4.の規定に準じて算出された価額とします。
7. 一部解約の価額については、委託会社の営業日に日々算出されます。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。
8. 解約代金のお支払いは、解約請求を受付けた日から起算して、原則として5営業日目からとします。
9. 換金請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの投資信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

3【資産管理等の概要】

（1）【資産の評価】

- 1) 基準価額は、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権口数で除して得た額をいいます。
- 2) 組入株式の評価は、国内株式については原則として計算日における取引所の終値（またはこれに準じた価格）で、外国株式については原則として計算日の前営業日付の現地取引所の終値（またはこれに準じた価格）により評価します。外貨建て資産の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。また、予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。
- 3) 基準価額は、委託会社の営業日に日々算出され、委託会社および販売会社で1万口当たりの価額として発表されます。基準価額については、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。また、原則として計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

電話番号 03-5208-5858（営業日の9:00～17:00）

ホームページ <http://www.pinebridge.co.jp/>

（2）【保管】

ファンドの受益権は、平成19年1月4日より、振替制度に移行しており、受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、受益証券を発行しません。

（3）【信託期間】

無期限とします。ただし、信託期間を繰上げて償還することがあります。（後記（5）その他 1）信託の終了 をご参照ください。）

（4）【計算期間】

原則として毎月16日から翌月15日までとします。

なお、各計算期間終了日に該当する日が休業日のとき、各計算期間終了日はその翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものとします。

（5）【その他】

1) 信託の終了

1. 投資信託契約の解約

イ) 委託会社は、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したとき、もしくは投資信託契約の一部解約により、受益権の口数が5億口を下るこ

となった場合には、受託会社と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

- ロ）委託会社は、前記イ）の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの投資信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託契約にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- ハ）前記ロ）の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- 二）前記ハ）の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記イ）の投資信託契約の解約をしません。
- ホ）委託会社は、この投資信託契約の解約をしないこととしたときには、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- ヘ）前記ハ）からホ）までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記ハ）の一定期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

2．投資信託契約に関する監督官庁の命令等による場合の信託終了

- イ）委託会社は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、投資信託契約を解約し信託を終了させます。
- ロ）委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。なお、監督官庁が、この投資信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、後記3）信託約款の変更4．に該当する場合を除き、当該委託会社と受託会社との間において存続します。

3．受託会社の辞任および解任による場合の信託終了

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は新受託会社を選任します。なお、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの投資信託契約を解約し、信託を終了させます。

2）委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

- 1．委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を譲渡することがあります。
- 2．委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この投資信託契約に関する事業を承継させることがあります。

3）信託約款の変更

- 1．委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。
- 2．委託会社は、前記1．の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- 3．前記2．の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- 4．前記3．の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記1．の信託約款を変更しません。
- 5．委託会社は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつこれらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受

受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

6. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、前記1. から5. までの規定に従います。

4) 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

5) 反対者の買取請求権

ファンドの投資信託契約の解約または信託約款の変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。

6) 運用報告書

委託会社は、原則として6ヵ月毎（4月および10月）および償還時に運用報告書を作成し、知られたる受益者に対して交付します。

また、このほか直近の運用状況等に関するレポートを定期的に作成・更新しており、各販売会社または委託会社のホームページにて入手することができます。

委託会社ホームページ <http://www.pinebridge.co.jp/>

7) 信託事務処理の再信託

受託会社は、当ファンドにかかる信託事務の処理の一部について日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

8) 関係会社との契約の更改

1. 販売会社との契約

委託会社と販売会社との間で締結される「受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約」には、販売会社の行う受益権の募集、一部解約請求、収益分配金および償還金の支払い等の取扱い等が規定されています。なお、契約の有効期間は1年とし、期間満了の3ヵ月前までに、いずれからも別段の意思表示がない場合は自動更新となります。

2. 投資顧問会社との契約

委託会社と委託会社が信託財産の運用にかかる指図権を委託するものとの間で締結する契約で、信託財産の運用委託権限の範囲、議決権行使の指図、発注権限、運用状況の報告内容、報酬等が定められています。なお、契約の有効期間は1年とし、期間満了の3ヵ月前までに、いずれからも別段の意思表示がない場合は自動更新となります。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は、次の通りです。

収益分配金に対する請求権

受益者は、収益分配金を、自己に帰属する受益権の口数に応じて請求する権利を有します。

< 分配金受取りコース > の収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に、毎決算日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日まで）から販売会社において支払われます。なお、受益者が収益分配金の支払開始日から5年間その支払いを請求しない場合にはその権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

< 分配金再投資コース > の収益分配金は、決算日の翌営業日に自動的に再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

一部解約の実行請求権

受益者は、信託財産の一部解約の実行を請求する権利を有します。

解約金は、原則として受益者の請求を受付けた日から起算して5営業日目から、販売会社において支払われます。

償還金に対する請求権

受益者は、償還金を、自己に帰属する受益権の口数に応じて請求する権利を有します。

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に、償還日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日から起算して5営業日まで）から、販売会社において支払われます。なお、受益者が支払開始日から10年間その支払いを請求しないときはその権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

反対者の買取請求権

信託約款の変更の内容が重大なものに該当するとき、または投資信託契約の解約が行われる場合、所定期間内に異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって公正な価額で買取るべき旨を請求することができます。

帳簿書類の閲覧・謄写請求権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当該受益者にかかる信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

(1)当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2)当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。

(3)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第29特定期間（平成24年10月16日から平成25年4月15日まで）の財務諸表について、あらた監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

パインブリッジ・ワールド株式・オープン

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第28特定期間 (平成24年10月15日現在)	第29特定期間 (平成25年4月15日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	14,869,504	25,886,930
コール・ローン	40,491,919	48,974,042
株式	1,303,325,985	1,638,439,820
未収入金	-	3,505,260
未収配当金	5,613,252	5,612,458
未収利息	77	40
流動資産合計	1,364,300,737	1,722,418,550
資産合計	1,364,300,737	1,722,418,550
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	1,000	-
未払収益分配金	16,689,844	15,363,934
未払解約金	6,289,610	6,045,180
未払受託者報酬	109,574	146,900
未払委託者報酬	1,753,172	2,350,399
流動負債合計	24,843,200	23,906,413
負債合計	24,843,200	23,906,413
純資産の部		
元本等		
元本	1,668,984,497	1,536,393,487
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	329,526,960	162,118,650
（分配準備積立金）	52,991,011	92,921
元本等合計	1,339,457,537	1,698,512,137
純資産合計	1,339,457,537	1,698,512,137
負債純資産合計	1,364,300,737	1,722,418,550

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第28特定期間 自 平成24年 4月17日 至 平成24年10月15日	第29特定期間 自 平成24年10月16日 至 平成25年 4月15日
営業収益		
受取配当金	31,422,349	16,499,870
配当株式	850,204	259,507
受取利息	18,632	12,801
有価証券売買等損益	2,823,075	284,671,321
為替差損益	35,829,583	267,084,440
その他収益	50	30,110
営業収益合計	715,273	568,558,049
営業費用		
受託者報酬	732,266	777,103
委託者報酬	11,716,162	12,433,521
その他費用	364,325	299,861
営業費用合計	12,812,753	13,510,485
営業利益又は営業損失（ ）	13,528,026	555,047,564
経常利益又は経常損失（ ）	13,528,026	555,047,564
当期純利益又は当期純損失（ ）	13,528,026	555,047,564
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	2,050,308	7,258,410
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	210,807,647	329,526,960
剰余金増加額又は欠損金減少額	39,269,781	44,019,453
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	39,269,781	39,678,848
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	4,340,605
剰余金減少額又は欠損金増加額	44,878,141	20,264,789
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	4,261,053
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	44,878,141	16,003,736
分配金	101,633,235	79,898,208
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	329,526,960	162,118,650

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しています。 時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等の最終相場を、特定期間末日に最終相場がない場合には、直近の日の最終相場で、直近の日の最終相場によることが適当でないと認められた場合は、特定期間末日又は直近の日の気配相場で評価しております。 時価が市場で取得できない場合は、価格情報会社または金融商品取引業者・銀行等の提示する価額で評価します。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 為替予約の評価は、原則として、我が国における特定期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建取引等の処理基準 外貨建取引については、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第28特定期間 (平成24年10月15日現在)	第29特定期間 (平成25年4月15日現在)
1. 期首元本額	1,640,992,524円	1,668,984,497円
期中追加設定元本額	257,598,190円	230,097,505円
期中一部解約元本額	229,606,217円	362,688,515円
2. 受益権の総数	1,668,984,497口	1,536,393,487口
3. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は329,526,960円であります。	-

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

項目	第28特定期間 自 平成24年 4月17日 至 平成24年10月15日	第29特定期間 自 平成24年10月16日 至 平成25年 4月15日
1. 投資信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託する場合における当該委託に要する費用	3,452,016円	3,663,379円
2. 分配金の計算過程	[平成24年4月17日から 平成24年5月15日までの 計算期間]	[平成24年10月16日から 平成24年11月15日までの 計算期間]
費用控除後の配当等収益額	1,959,769円	355,178円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円	0円
収益調整金額	2,170,491,437円	2,132,722,121円
分配準備積立金額	140,628,365円	50,831,472円
当ファンドの分配対象収益額	2,313,079,571円	2,183,908,771円
当ファンドの期末残存口数	1,676,531,778口	1,637,300,607口
1万口当たり収益分配対象額	13,796.81円	13,338.47円
1万口当たり分配金額	100.00円	70.00円
収益分配金金額	16,765,317円	11,461,104円
	[平成24年5月16日から 平成24年6月15日までの 計算期間]	[平成24年11月16日から 平成24年12月17日までの 計算期間]
費用控除後の配当等収益額	10,312,430円	1,400,212円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円	0円
収益調整金額	2,210,522,125円	2,060,845,382円
分配準備積立金額	123,238,761円	37,749,236円
当ファンドの分配対象収益額	2,344,073,316円	2,099,994,830円
当ファンドの期末残存口数	1,703,708,845口	1,581,632,211口
1万口当たり収益分配対象額	13,758.64円	13,277.39円
1万口当たり分配金額	100.00円	70.00円
収益分配金金額	17,037,088円	11,071,425円
	[平成24年6月16日から 平成24年7月17日までの 計算期間]	[平成24年12月18日から 平成25年 1月15日までの 計算期間]
費用控除後の配当等収益額	2,676,459円	1,692,417円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円	0円
収益調整金額	2,222,185,781円	2,042,708,918円
分配準備積立金額	114,486,235円	27,244,197円
当ファンドの分配対象収益額	2,339,348,475円	2,071,645,532円
当ファンドの期末残存口数	1,710,753,224口	1,567,258,703口
1万口当たり収益分配対象額	13,674.37円	13,218.27円
1万口当たり分配金額	100.00円	70.00円
収益分配金金額	17,107,532円	10,970,810円

	[平成24年7月18日から 平成24年8月15日まで の計算期間]	[平成25年1月16日から 平成25年2月15日まで の計算期間]
費用控除後の配当等収益額	2,404,619円	2,991,347円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円	0円
収益調整金額	2,191,487,953円	2,025,459,604円
分配準備積立金額	97,093,206円	17,284,746円
当ファンドの分配対象収益額	2,290,985,778円	2,045,735,697円
当ファンドの期末残存口数	1,685,956,652口	1,553,602,305口
1万口当たり収益分配対象額	13,588.63円	13,167.69円
1万口当たり分配金額	100.00円	100.00円
収益分配金金額	16,859,566円	15,536,023円
	[平成24年8月16日から 平成24年9月18日まで の計算期間]	[平成25年2月16日から 平成25年3月15日まで の計算期間]
費用控除後の配当等収益額	3,031,601円	2,277,763円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円	0円
収益調整金額	2,234,544,619円	2,020,240,939円
分配準備積立金額	81,995,277円	4,605,262円
当ファンドの分配対象収益額	2,319,571,497円	2,027,123,964円
当ファンドの期末残存口数	1,717,388,803口	1,549,491,292口
1万口当たり収益分配対象額	13,506.38円	13,082.51円
1万口当たり分配金額	100.00円	100.00円
収益分配金金額	17,173,888円	15,494,912円
	[平成24年 9月19日から 平成24年10月15日まで の計算期間]	[平成25年3月16日から 平成25年4月15日まで の計算期間]
費用控除後の配当等収益額	4,939,431円	5,407,488円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円	0円
収益調整金額	2,172,809,422円	1,994,620,613円
分配準備積立金額	64,741,424円	62,810円
当ファンドの分配対象収益額	2,242,490,277円	2,000,090,911円
当ファンドの期末残存口数	1,668,984,497口	1,536,393,487口
1万口当たり収益分配対象額	13,436.25円	13,018.09円
1万口当たり分配金額	100.00円	100.00円
収益分配金金額	16,689,844円	15,363,934円

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

項目	第28特定期間 自 平成24年 4月17日 至 平成24年10月15日	第29特定期間 自 平成24年10月16日 至 平成25年 4月15日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、投資信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対する投資として運用することを目的としています。	同左

2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する主な金融資産は、株式、金銭債権及びデリバティブ取引により生じる正味の債権等であり、金融負債は、金銭債務及びデリバティブ取引により生じる正味の債務等であります。当該金融商品は、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスクがあります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	・ 運用業務部において運用実績の分析・評価を行い、運用評価委員会に上程します。 ・ 法務コンプライアンス部において運用業務の考査および諸法令等の遵守状況に関する監理を行い、必要に応じて指導、勧告を行うとともに、内部統制委員会に報告します。 ・ 運用評価委員会および内部統制委員会において、パフォーマンス評価と法令等の遵守状況の審査が行われます。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	第28特定期間 (平成24年10月15日現在)	第29特定期間 (平成25年4月15日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記「有価証券の評価基準及び評価方法」に記載しております。 (2) デリバティブ取引 「（デリバティブ取引等に関する注記）」に記載しております。 (3) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品については、短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	(1) 有価証券 同左 (2) デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。 また、「（デリバティブ取引等に関する注記）」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額	貸借対照表に計上している金銭債権は、その全額が1年以内に償還されます。	同左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

（単位：円）

種類	第28特定期間 (平成24年10月15日現在)	第29特定期間 (平成25年4月15日現在)
	最終の計算期間の損益 に含まれた評価差額	最終の計算期間の損益 に含まれた評価差額
株式	62,327,526	29,861,600
合計	62,327,526	29,861,600

（デリバティブ取引等に関する注記）

取引の時価等に関する事項

通貨関連

区分	種類	第28特定期間（平成24年10月15日現在）			
		契約額等 （円）	うち1年超 （円）	時価 （円）	評価損益 （円）
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 米国ドル	7,837,000	-	7,838,000	1,000
合計		7,837,000	-	7,838,000	1,000

第29特定期間（平成25年4月15日現在）

該当事項はありません。

（注）時価の算定方法

1. 特定期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しています。

特定期間末日において為替予約の受渡日（以下「当該日」という）の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しています。

特定期間末日において当該日の対顧客先物売買相場が発表されていない場合は、以下の方法によっています。

- ・ 特定期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いています。
- ・ 特定期間末日に当該日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いています。

2. 特定期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、特定期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しています。
3. 換算において円未満の端数は切り捨てています。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

項目	第28特定期間 (平成24年10月15日現在)	第29特定期間 (平成25年4月15日現在)
1口当たり純資産額	0.8026円	1.1055円

(1万口当たり純資産額)	(8,026円)	(11,055円)
--------------	----------	-----------

(4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表（平成25年4月15日現在）

(1)株式

通貨	銘柄	株式数	評価額単価	評価額金額	備考
日本円	富士フイルムホールディングス	9,300	2,039.00	18,962,700	
	武田薬品工業	4,100	5,100.00	20,910,000	
	アステラス製薬	4,900	5,480.00	26,852,000	
	第一三共	11,500	1,830.00	21,045,000	
	キヤノン	7,200	3,675.00	26,460,000	
	トヨタ自動車	6,000	5,540.00	33,240,000	
	本田技研工業	5,900	3,885.00	22,921,500	
	日本電信電話	7,900	4,710.00	37,209,000	
	三菱UFJフィナンシャル・グループ	41,500	663.00	27,514,500	
	三井住友フィナンシャルグループ	4,300	4,510.00	19,393,000	
	NK S Jホールディングス	7,700	2,331.00	17,948,700	
	M S & A D インシュアランスグループホールディングス	7,800	2,473.00	19,289,400	
	東京海上ホールディングス	6,800	3,120.00	21,216,000	
小計		124,900		312,961,800	
米国ドル	CHESAPEAKE ENERGY CORP	21,850	19.68	430,008.00	
	LUKOIL OAO-SPON ADR	3,800	62.21	236,398.00	
	MASCO CORP	8,700	20.11	174,957.00	
	NEWS CORP-CL A	9,302	31.54	293,385.08	
	KROGER CO	8,600	33.11	284,746.00	
	SAFEWAY INC	14,100	26.85	378,585.00	
	PEPSICO INC	6,390	79.99	511,136.10	
	BOSTON SCIENTIFIC CORP	30,910	7.66	236,770.60	
	LILLY(ELI) & CO	4,000	57.51	230,040.00	
	MERCK & CO INC	3,590	47.11	169,124.90	
	PFIZER INC	11,910	30.67	365,279.70	
	PNC FINANCIAL SERVICES GROUP	2,102	65.81	138,332.62	
	WELLS FARGO & COMPANY	10,923	37.21	406,444.83	
	BANK OF AMERICA CORP	23,309	12.17	283,670.53	
	BANK OF NEW YORK MELLON CORP	7,900	28.45	224,755.00	
	CITIGROUP INC	7,439	44.78	333,118.42	
	STATE STREET CORP	4,800	59.75	286,800.00	
	MICROSOFT CORP	16,500	28.83	475,695.00	
	CORNING INC.	20,435	13.30	271,785.50	
	HEWLETT PACKARD CO.	9,325	20.90	194,892.50	
	TE CONNECTIVITY LTD	8,105	41.61	337,249.05	
	WESTERN DIGITAL CORP	8,040	52.32	420,652.80	
	AMERICA MOVIL-ADR SERIES L	10,929	20.97	229,181.13	
	TIM PARTICIPACOES SA-ADR	6,635	21.84	144,908.40	
	INTEL CORP	6,845	21.68	148,399.60	
小計		266,439		7,206,315.76	
				(710,830,986)	
ユーロ	ENI SPA	15,200	17.84	271,168.00	
	TOTAL SA	8,600	37.19	319,834.00	
	CARREFOUR SA	12,212	21.60	263,840.26	
	KONINKLIJKE AHOLD NV	19,940	12.07	240,675.80	
	UNILEVER NV-CVA	7,300	31.89	232,797.00	
	SANOFI	3,000	79.50	238,500.00	
	INTESA SANPAOLO	44,081	1.24	54,704.52	
	INTESA SANPAOLO-RSP	75,600	1.04	78,926.40	
	AEGON NV	36,499	4.66	170,304.33	
	DEUTSCHE TELEKOM AG	25,500	8.77	223,864.50	

(2) 株式以外の有価証券
該当事項はありません。

- (注)1.通貨種類毎の小計欄の（ ）内は、邦貨換算額であります。
- 2.合計欄の記載は邦貨額であり、（ ）内は外貨建有価証券に係るもので、内書であります。
- 3.外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入株式時価比率	合計金額に対する比率
米国ドル	株式 25銘柄	100.0%	53.6%
ユーロ	株式 15銘柄	100.0%	28.2%
英国ポンド	株式 7銘柄	100.0%	13.7%
スイス・フラン	株式 1銘柄	100.0%	2.6%
スウェーデン・クローナ	株式 1銘柄	100.0%	1.9%

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

（平成25年5月31日現在）

資産総額	1,950,893,409 円
負債総額	52,247,958 円
純資産総額（ - ）	1,898,645,451 円
発行済数量（口）	1,615,223,347 口
1口当たり純資産額（ / ） （1万口当たりの純資産額）	1.1755 円 （11,755 円）

（注） の資産には、有価証券の評価損益が含まれています。

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

ファンドの受益権は、平成19年1月4日より、振替受益権となっており、委託会社は、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

1. 名義書換

該当事項はありません。

2. 受益者に対する特典

該当事項はありません。

3. 譲渡制限

該当事項はありません。

4. 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

前記 の申請のある場合には、前記 の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前記 の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

前記 の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

5. 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

6. 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

7. 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、）に支払います。

8. 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

（平成25年5月末日現在）

- ・資本金の額 500,000,000円
- ・会社が発行する株式の総数 50,000株
- ・発行済株式総数 41,000株
- ・資本金の額の増減（最近5年間）
 - 平成20年 6月30日 株式発行により473,787,239円増加。
 - 平成20年12月30日 株式発行により476,121,625円増加。
 - 平成24年 8月11日 1,650,000,000円減少。

・会社の機構

（1）経営の意思決定

3名以上の取締役が、株主総会において選任されます。取締役の選任は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。

取締役の任期は、選任後1年以内の最終の決算期に関する定時株主総会の終結時までとし、欠員の補充または増員により就任した取締役の任期は、他の取締役の残任期間と同一です。

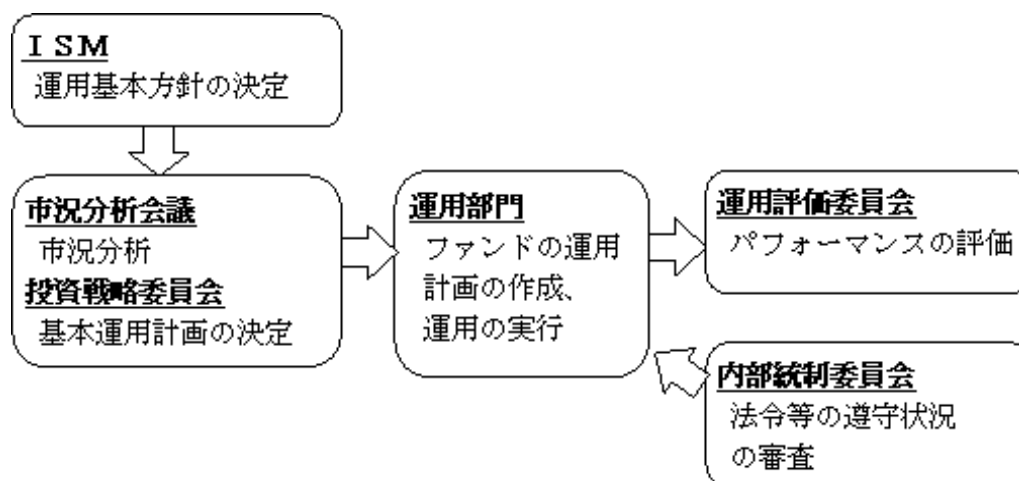
取締役会は、その決議をもって、代表取締役1名以上を選定します。また、会長、社長、副社長及びその他の役付取締役を選定することができます。

取締役会は、少なくとも3ヵ月に1回は開催します。取締役会は、当社の経営に関するすべての重要事項並びに法令もしくは定款によって定められた事項を決定します。取締役会の決議は、法律に別段の定めがある場合を除き、取締役の過半数が出席のうえ、出席取締役の過半数の議決によって行います。

（2）運用の意思決定

世界中の運用拠点の主要メンバーにより組織されているインベストメント・ストラテジー・ミーティング（ISM：Investment Strategy Meeting）で経済環境、投資戦略、市場リスク分析、各地域の景気サイクルなどの詳細な分析が行われ、これを参考に、独自に開催する市況分析会議・投資戦略委員会を経て基本運用計画を決定します。これに基づいて、運用部門においてファンド毎の運用計画を作成し、ポートフォリオの構築を行い運用を実行します。

なお、運用体制は次の通りとなっております。



前記の運用体制等は、今後変更することがあります。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務等を行っています。

委託会社の運用する証券投資信託は、平成25年5月末日現在、次の通りです。（ただし、親投資信託を除きます。）

種類	本数	純資産総額
単位型株式投資信託	31	90,939 百万円
追加型株式投資信託	65	557,549 百万円
合計	96	648,489 百万円

3【委託会社等の経理状況】

- 1．当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づき作成しております。
- 2．財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。
- 3．当社は、第28期事業年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の財務諸表について、金融商品取引法第193条の2第1項の規定により、あらた監査法人により監査を受けております。

1. 財務諸表

(1) 【貸借対照表】

	(単位：千円)	
	第27期 (平成24年3月31日現在)	第28期 (平成25年3月31日現在)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	*2 1,673,740	*2 334,667
前払費用	68,179	78,455
未収入金	466,276	35,659
未収委託者報酬	171,371	1,596,855
未収運用受託報酬	222,132	223,887
未収販売手数料	8,279	9,419
立替金	4,238	33,280
未収還付法人税等	193	15
未収還付消費税等	58,402	-
前渡金	150,013	-
流動資産合計	2,822,825	2,312,240
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	*1 145,676	*1 26,939
工具器具備品	*1 58,741	*1 31,800
有形固定資産合計	204,417	58,739
無形固定資産		
のれん	311,439	-
ソフトウェア	95,396	49,306
電話加入権	3,875	3,875
無形固定資産合計	410,712	53,181
投資その他の資産		
投資有価証券	89,514	88,050
関係会社株式	-	371,079
その他の関係会社有価証券	70,499	1,798
長期貸付金	2,428,604	-
敷金保証金	193,745	153,069
長期前払費用	983	39,866
預託金	274	74
投資その他の資産合計	2,783,621	653,938
固定資産合計	3,398,752	765,860
資産合計	6,221,578	3,078,101

（単位：千円）

	第27期 (平成24年3月31日現在)	第28期 (平成25年3月31日現在)
負債の部		
流動負債		
預り金	90,289	20,792
未払金		
未払収益分配金	1,692	1,692
未払償還金	3,500	3,500
未払手数料	70,745	722,328
その他未払金	127,243	263,346
未払費用	831,782	694,184
前受収益	42,000	10,655
未払消費税等	-	3,237
賞与引当金	80,107	51,275
役員賞与引当金	2,181	3,714
流動負債合計	1,249,540	1,774,727
固定負債		
退職給付引当金	136,736	92,637
役員退職慰労引当金	42,336	28,009
長期前受収益	-	39,083
その他	11,792	14,747
固定負債合計	190,864	174,478
負債合計	1,440,404	1,949,206
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,150,000	500,000
資本剰余金		
資本準備金	823,989	31,736
資本剰余金合計	823,989	31,736
利益剰余金		
利益準備金	265,112	265,112
その他利益剰余金		
任意積立金	230,000	230,000
繰越利益剰余金	1,325,557	113,995
利益剰余金合計	1,820,669	609,108
株主資本合計	4,794,659	1,140,845
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13,485	11,950
評価・換算差額等合計	13,485	11,950
純資産合計	4,781,174	1,128,895
負債・純資産合計	6,221,578	3,078,101

(2)【損益計算書】

(単位：千円)

	第27期 (自平成23年 4月 1日 至平成24年 3月31日)	第28期 (自平成24年 4月 1日 至平成25年 3月31日)
営業収益		
委託者報酬	6,349,954	5,603,677
運用受託報酬	872,232	707,864
その他営業収益	280,669	118,196
営業収益合計	7,502,856	6,429,738
営業費用		
支払手数料	2,842,546	2,494,241
広告宣伝費	32,471	41,490
公告費	2,790	2,485
調査費		
調査費	614,323	570,416
委託調査費	1,465,989	1,266,216
営業雑経費		
通信費	26,067	24,881
印刷費	95,270	104,342
協会費	15,587	7,606
図書費	2,254	1,763
営業費用合計	5,097,301	4,513,443
一般管理費		
給料		
役員報酬	54,013	37,100
給料・手当	1,303,864	950,746
賞与	164,583	111,737
役員賞与	13,872	9,622
賞与引当金繰入	80,107	51,275
役員賞与引当金繰入	2,181	3,714
交際費	6,107	1,920
寄付金	1,369	912
旅費交通費	54,095	40,730
租税公課	14,874	11,313
不動産賃借料	216,238	218,403
退職給付費用	29,758	13,714
退職金	44,538	36,071
役員退職慰労引当金繰入	28,559	1,873
固定資産減価償却費	130,727	194,496
業務委託費	889,338	587,813
諸経費	111,245	129,492
一般管理費合計	3,145,477	2,400,940
営業利益又は営業損失（ ）	739,921	484,645
営業外収益		
受取利息	9,995	14,348
受取配当金	-	5
雑収入	3,036	9,678
その他	-	18
営業外収益合計	13,032	24,050
営業外費用		
為替差損	57,064	42,221
雑損失	24,555	7
株式交付費償却	1,492	-
その他	24	81
営業外費用合計	83,137	42,309
経常利益又は経常損失（ ）	810,026	502,904

特別損失			
固定資産除却損	*1	3,817	*1 9,035
減損損失		-	*2 301,757
退職特別加算金		-	163,070
その他の関係会社有価証券評価損		-	59,042
諸税金		-	*3 84,600
賃貸契約解約違約金		-	35,372
特別損失合計		3,817	652,877
税引前当期純利益又は税引前当期純損失（ ）		813,843	1,155,782
法人税、住民税及び事業税		3,020	3,780
法人税等調整額		460,615	-
法人税等合計		463,635	3,780
当期純利益又は当期純損失（ ）		1,277,479	1,159,562

(3) 【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	第27期 (自平成23年 4月 1日 至平成24年 3月31日)	第28期 (自平成24年 4月 1日 至平成25年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,150,000	2,150,000
当期変動額		
資本金からその他資本剰余金への振替	-	1,650,000
当期変動額合計	-	1,650,000
当期末残高	2,150,000	500,000
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	823,989	823,989
当期変動額		
資本準備金からその他資本剰余金への振替	-	792,253
当期変動額合計	-	792,253
当期末残高	823,989	31,736
その他資本剰余金		
当期首残高	-	-
当期変動額		
資本金からその他資本剰余金への振替	-	1,650,000
資本準備金からその他資本剰余金への振替	-	792,253
その他資本剰余金の配当	-	2,442,253
当期変動額合計	-	-
当期末残高	-	-
資本剰余金合計		
当期首残高	823,989	823,989
当期変動額		
資本金からその他資本剰余金への振替	-	1,650,000
資本準備金からその他資本剰余金への振替	-	-
その他資本剰余金の配当	-	2,442,253
当期変動額合計	-	792,253
当期末残高	823,989	31,736
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	265,112	265,112
当期変動額	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	265,112	265,112
その他利益剰余金		
任意積立金		
当期首残高	230,000	230,000
当期変動額	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	230,000	230,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	2,603,036	1,325,557
当期変動額		
剰余金の配当	-	51,998
当期純利益又は当期純損失（ ）	1,277,479	1,159,562
当期変動額合計	1,277,479	1,211,560
当期末残高	1,325,557	113,995
利益剰余金合計		
当期首残高	3,098,149	1,820,669
当期変動額		
剰余金の配当	-	51,998
当期純利益又は当期純損失（ ）	1,277,479	1,159,562
当期変動額合計	1,277,479	1,211,560
当期末残高	1,820,669	609,108

株主資本合計		
当期首残高	6,072,138	4,794,659
当期変動額		
資本金からその他資本剰余金への振替	-	-
資本準備金からその他資本剰余金への振替	-	-
その他資本剰余金の配当	-	2,442,253
剰余金の配当	-	51,998
当期純利益又は当期純損失（ ）	1,277,479	1,159,562
当期変動額合計	1,277,479	3,653,813
当期末残高	4,794,659	1,140,845
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	11,080	13,485
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,405	1,535
当期変動額合計	2,405	1,535
当期末残高	13,485	11,950
評価・換算差額等合計		
当期首残高	11,080	13,485
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,405	1,535
当期変動額合計	2,405	1,535
当期末残高	13,485	11,950
純資産合計		
当期首残高	6,061,058	4,781,174
当期変動額		
資本金からその他資本剰余金への振替	-	-
資本準備金からその他資本剰余金への振替	-	-
その他資本剰余金の配当	-	2,442,253
剰余金の配当	-	51,998
当期純利益又は当期純損失（ ）	1,277,479	1,159,562
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,405	1,535
当期変動額合計	1,279,884	3,652,278
当期末残高	4,781,174	1,128,895

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1)子会社株式 移動平均法による原価法 (2)その他の関係会社有価証券 移動平均法による原価法 (3)その他有価証券(時価のあるもの) 期末の市場価格に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
2. 固定資産の減価償却の方法	(1)有形固定資産 建物附属設備及び工具器具備品は定率法によっております。 (2)無形固定資産 1. ソフトウェア（自社利用分）については、定額法により、社内における利用可能期間（5年）で償却しております。 2. のれんについては、定額法により、効果が及ぶと見積られる期間（20年）で償却しております。 (3)長期前払費用 定額法により償却しております。
3. 繰延資産の処理方法	株式交付費 定額法により3年間で償却しております。
4. 引当金の計上基準	(1)賞与引当金 従業員に支給する賞与の支払いに充てるため、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。 (2)役員賞与引当金 役員に支給する賞与の支払いに充てるため、役員賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。 (3)退職給付引当金 従業員の退職給付の支出に充てるため、内規に基づく当事業年度末現在の退職給付要支給額を計上しております。 (4)役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に充てるため、内規に基づく当事業年度末現在の役員退職慰労金要支給額を計上しております。
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税抜方式によっております。

会計上の見積もりの変更

有形固定資産の耐用年数の変更	当社が保有する建物附属設備は従来耐用年数を8年から15年として、工具器具備品については6年から8年として減価償却を行ってきましたが、当事業年度において本社事務所再構築に着手しており、建物附属設備及び工具器具備品の除却が確実に発生することが予想されるため、対象となる建物附属設備及び工具器具備品の耐用年数を除却までの期間（建物附属設備3年、工具器具備品3年）に見直し、将来に渡り変更しております。 この変更により、従来の方法に比べて、当事業年度の営業損失、経常損失及び税引前当期純損失が各々95,996千円増加しております。
----------------	--

注記事項

（貸借対照表関係）

第27期 平成24年3月31日現在	第28期 平成25年3月31日現在
*1 有形固定資産の減価償却累計額 建物附属設備 43,995 千円 工具器具備品 102,248 千円 *2 信託資産 現金・預金のうち、10,140千円は、直販顧客分別金信託契約により、三菱UFJ信託銀行株式会社に信託しております。	*1 有形固定資産の減価償却累計額 建物附属設備 161,833 千円 工具器具備品 127,369 千円 *2 信託資産 現金・預金のうち、10,143千円は、直販顧客分別金信託契約により、三菱UFJ信託銀行株式会社に信託しております。

（損益計算書関係）

第27期 自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日	第28期 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日								
*1 固定資産除却損は、工具器具備品194千円、ソフトウェア3,623千円であります。	*1 固定資産除却損は、建物付属設備2,010千円、工具器具備品632千円、ソフトウェア6,393千円であります。 *2 減損損失 当事業年度において、当社は以下の通り減損損失を計上致しました。 <table><tr><th>場所</th><th>用途</th><th>種類</th><th>減損損失(千円)</th></tr><tr><td>本社（東京都千代田区）</td><td>第一種金融商品取引業</td><td>のれん</td><td>301,757</td></tr></table> 資産のグルーピングについては、主に内部管理上の区分に基づいております。 当社は、上記資産に係る事業の廃止を予定しており、当該事業に係る既存契約の解約状況及び市場動向を勘案して評価した結果、のれん未償却残高の全額を減損損失として特別損失に計上しております。 尚、回収可能価額は使用価値により算定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスのため、割引率の算定はしておりません。 *3 諸税金 子会社取得に伴い、海外で贈与税84,600千円を申告納付致しました。	場所	用途	種類	減損損失(千円)	本社（東京都千代田区）	第一種金融商品取引業	のれん	301,757
場所	用途	種類	減損損失(千円)						
本社（東京都千代田区）	第一種金融商品取引業	のれん	301,757						

（株主資本等変動計算書関係）

第27期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	41,000 株	-	-	41,000 株
合 計	41,000 株	-	-	41,000 株

2. 配当に関する事項

配当支払額

該当事項はありません。

第28期（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	41,000 株	-	-	41,000 株
合 計	41,000 株	-	-	41,000 株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

金銭による配当

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月29日の 定時株主総会	普通株式	51,998	1,268	平成24年3月31日	平成24年8月13日

金銭以外による配当

決議	株式の種類	配当財産の種類	配当財産の 帳簿価額 (千円)	一株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月29日の 定時株主総会	普通株式	パインブリッジ・イン ベストメンツ・イ ホールディングス US LLCに対する貸付金債 権及び利息債権	2,442,253	59,567	平成24年3月31日	平成24年8月13日

(リース取引関係)

第27期 自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日		第28期 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日	
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに 係る未経過リース料		オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに 係る未経過リース料	
未経過リース料期末残高相当額		未経過リース料期末残高相当額	
1年内	217,143 千円	1年内	158,990 千円
1年超	57,674 千円	1年超	168,859 千円
合計	274,817 千円	合計	327,849 千円

第27期（自 平成23年4月 1日至 平成24年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は資金運用について短期的な預金及びグループ会社への貸付金に限定しております。又、所要資金は自己資金で賄っており、銀行借入、社債発行等による資金調達はありません。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

預金は銀行の信用リスクに晒されております。営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬、未収入金については、顧客の信用リスクに晒されております。未収入金及びその他未払金の一部には、海外の関連会社との取引により生じた外貨建ての資産・負債を保有しているため、為替相場の変動による市場リスクに晒されております。

（3）金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

預金に係る銀行の信用リスクに関しては、口座開設時及びその後も継続的に銀行の信用力を評価し、格付けの高い金融機関に係る銀行のみで運用し、預金に係る信用リスクを管理しております。未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、投資信託又は取引相手毎に残高を管理し、当社が運用している資産の中から報酬を徴収するため、信用リスクは僅少であります。又、未収入金は概ね海外の関連会社との取引により生じたものであり、定期的に決済が行われる事により、回収が不能となるリスクは僅少であります。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は原則、為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりません。外貨建ての債権債務に関する為替の変動リスクについては、個別の案件毎に毎月残高照合等を行い、リスクを管理しております。

流動性リスク（支払期日に支払を実行出来なくなるリスク）の管理

当社は日々資金残高管理を行っております。又、月次で資金繰り予定表を作成・更新するとともに、手元流動性（最低限必要な運転資金）を状況に応じて見直し・維持する事等により、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。尚、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
1) 現金・預金	1,673,740	1,673,740	-
2) 未収入金	466,276	466,276	-
3) 未収運用受託報酬	222,132	222,132	-
4) 長期貸付金	2,428,604	2,445,051	16,447
資産計	4,790,752	4,807,199	16,447
1) 未払費用	831,782	831,782	-
負債計	831,782	831,782	-

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

1) 現金・預金、2) 未収入金、3) 未収運用受託報酬

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

4) 長期貸付金

長期貸付金の時価の算定は、信用リスクを加味した将来キャッシュフローを国債の利回り等適切な利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

1) 未払費用

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
1) 現金・預金	1,673,740	-	-	-
2) 未収入金	466,276	-	-	-

3) 未収運用受託報酬	222,132	-	-	-
4) 長期貸付金	-	2,428,604	-	-
合計	2,362,148	2,428,604	-	-

第28期（自 平成24年4月 1日至 平成25年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は資金運用について短期的な預金及びグループ会社への貸付金に限定しております。又、所要資金は自己資金で賄っており、銀行借入、社債発行等による資金調達はありません。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

預金は銀行の信用リスクに晒されております。営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬、未収入金については、顧客の信用リスクに晒されております。未収入金及びその他未払金の一部には、海外の関連会社との取引により生じた外貨建ての資産・負債を保有しているため、為替相場の変動による市場リスクに晒されております。

（3）金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

預金に係る銀行の信用リスクに関しては、口座開設時及びその後も継続的に銀行の信用力を評価し、格付けの高い金融機関に係る銀行のみで運用し、預金に係る信用リスクを管理しております。未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、投資信託又は取引相手毎に残高を管理し、当社が運用している資産の中から報酬を徴収するため、信用リスクは僅少であります。又、未収入金は概ね海外の関連会社との取引により生じたものであり、定期的に決済が行われる事により、回収が不能となるリスクは僅少であります。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は原則、為替変動や価格変動に係るリスクに対して、ヘッジ取引を行っておりません。外貨建ての債権債務に関する為替の変動リスクについては、個別の案件毎に毎月残高照合等を行い、リスクを管理しております。

流動性リスク（支払期日に支払を実行出来なくなるリスク）の管理

当社は日々資金残高管理を行っております。又、月次で資金繰り予定表を作成・更新するとともに、手元流動性（最低限必要な運転資金）を状況に応じて見直し・維持する事等により、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
1) 現金・預金	334,667	334,667	-
2) 未収委託者報酬	1,596,855	1,596,855	-
3) 未収運用受託報酬	223,887	223,887	-
資産計	2,155,409	2,155,409	-
1) 未払費用	694,184	694,184	-
2) 未払手数料	722,328	722,328	-
3) その他未払金	263,346	263,346	-
負債計	1,679,858	1,679,858	-

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

1) 現金・預金、2) 未収委託者報酬、3) 未収運用受託報酬

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負債

1) 未払費用、2) 未払手数料、3) その他未払金

短期間で決済され、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）子会社株式（貸借対照表計上額371,079千円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

（注3）金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
1) 現金・預金	334,667	-	-	-
2) 未収委託者報酬	1,596,855	-	-	-
3) 未収運用受託報酬	223,887	-	-	-
合計	2,155,409	-	-	-

（有価証券関係）

第27期 平成24年3月31日現在				第28期 平成25年3月31日現在			
1. その他の関係会社有価証券 (単位：千円)				1. 子会社株式及びその他の関係会社有価証券 (単位：千円)			
区分	貸借対照表計上額			区分	貸借対照表計上額		
その他の関係会社有価証券	70,499			子会社株式	371,079		
				その他の関係会社有価証券	1,798		
上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。				(注) 表中のその他の関係会社有価証券は減損処理後の帳簿価額であります。尚、当事業年度において減損処理を行い、その他の関係会社有価証券評価損59,042千円を計上しております。			
2. その他有価証券で時価のあるもの (単位：千円)				2. その他有価証券で時価のあるもの (単位：千円)			
区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額	区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの				貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
投資信託受益証券	89,514	103,000	13,485	投資信託受益証券	88,050	100,000	11,950
3. 当事業年度に売却したその他有価証券				3. 当事業年度に売却したその他有価証券			
売却額：		976 千円		売却額：		3,937 千円	
売却益の合計額：		- 千円		売却益の合計額：		18 千円	
売却損の合計額：		24 千円		売却損の合計額：		81 千円	

（退職給付関係）

第27期（平成24年3月31日現在）

1. 採用している退職給付制度の概要	
当社は、確定拠出年金制度及び退職一時金制度を設けております。	
2. 退職給付債務に関する事項	
	千円
退職給付債務	136,736
退職給付引当金	136,736
3. 退職給付費用に関する事項	
	千円
勤務費用	29,758
退職給付費用	29,758

第28期（平成25年3月31日現在）

1．採用している退職給付制度の概要	
当社は、確定拠出年金制度及び退職一時金制度を設けております。	
2．退職給付債務に関する事項	
	千円
退職給付債務	92,637
退職給付引当金	92,637
3．退職給付費用に関する事項	
	千円
勤務費用	13,714
退職給付費用	13,714

（税効果会計関係）

第27期 平成24年3月31日現在		第28期 平成25年3月31日現在	
1．繰延税金資産発生的主要原因別内訳		1．繰延税金資産発生的主要原因別内訳	
（単位：千円）		（単位：千円）	
繰延税金資産		繰延税金資産	
未払金否認	20,060	未払金否認	67,212
賞与引当金否認	31,277	賞与引当金否認	19,489
のれん	49,647	減価償却超過額	36,488
退職給付引当金否認	49,620	退職給付引当金否認	45,688
役員退職慰労引当金否認	15,088	役員退職慰労引当金否認	9,982
繰越欠損金	486,323	関係会社出資金評価損	22,350
その他	32,389	繰越欠損金	705,802
		その他	63,269
繰延税金資産小計	684,408	繰延税金資産小計	970,281
評価性引当額	684,408	評価性引当額	970,281
繰延税金資産合計	-	繰延税金資産合計	-
2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳		2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	
当事業年度は税引前当期純損失となっており、且つ税務上の課税所得も発生していないため、記載を省略しております。		当事業年度は税引前当期純損失となっており、且つ税務上の課税所得も発生していないため、記載を省略しております。	

（セグメント情報等）

第27期 平成24年3月31日現在	第28期 平成25年3月31日現在																
1. セグメント情報 当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。	1. セグメント情報 当社はアセットマネジメント業の単一セグメントであるため、記載しておりません。																
2. 関連情報 (1) 製品及びサービス毎の情報 (単位：千円) <table><tr><th></th><th>委託者報酬</th><th>運用受託報酬</th><th>その他営業収益</th></tr><tr><td>外部顧客への営業収益</td><td>6,349,954</td><td>872,232</td><td>280,669</td></tr></table>		委託者報酬	運用受託報酬	その他営業収益	外部顧客への営業収益	6,349,954	872,232	280,669	2. 関連情報 (1) 製品及びサービス毎の情報 (単位：千円) <table><tr><th></th><th>委託者報酬</th><th>運用受託報酬</th><th>その他営業収益</th></tr><tr><td>外部顧客への営業収益</td><td>5,603,677</td><td>707,864</td><td>118,196</td></tr></table>		委託者報酬	運用受託報酬	その他営業収益	外部顧客への営業収益	5,603,677	707,864	118,196
	委託者報酬	運用受託報酬	その他営業収益														
外部顧客への営業収益	6,349,954	872,232	280,669														
	委託者報酬	運用受託報酬	その他営業収益														
外部顧客への営業収益	5,603,677	707,864	118,196														
(2) 地域毎の情報 営業収益 国内の外部顧客への営業収益に分類した額が営業収益の90%超であるため、記載を省略しております。 有形固定資産 全有形固定資産が国内に所在しているため、記載を省略しております。	(2) 地域毎の情報 営業収益 国内の外部顧客への営業収益に分類した額が営業収益の90%超であるため、記載を省略しております。 有形固定資産 全有形固定資産が国内に所在しているため、記載を省略しております。																
(3) 主要な顧客毎の情報 <table><tr><th>顧客の名称又は氏名</th><th>営業収益(千円)</th></tr><tr><td>年金バランス50ファンド (適格機関投資家向け)</td><td>894,326</td></tr><tr><td>パインブリッジ新成長国債券プラス</td><td>1,600,506</td></tr></table>	顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)	年金バランス50ファンド (適格機関投資家向け)	894,326	パインブリッジ新成長国債券プラス	1,600,506	(3) 主要な顧客毎の情報 <table><tr><th>顧客の名称又は氏名</th><th>営業収益(千円)</th></tr><tr><td>年金バランス50ファンド (適格機関投資家向け)</td><td>781,545</td></tr><tr><td>パインブリッジ新成長国債券プラス</td><td>1,108,924</td></tr></table>	顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)	年金バランス50ファンド (適格機関投資家向け)	781,545	パインブリッジ新成長国債券プラス	1,108,924				
顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)																
年金バランス50ファンド (適格機関投資家向け)	894,326																
パインブリッジ新成長国債券プラス	1,600,506																
顧客の名称又は氏名	営業収益(千円)																
年金バランス50ファンド (適格機関投資家向け)	781,545																
パインブリッジ新成長国債券プラス	1,108,924																
当社が運用する投資信託のうち、委託者報酬の金額が営業収益の10%以上のものを記載しております。	当社が運用する投資信託のうち、委託者報酬の金額が営業収益の10%以上のものを記載しております。																

（関連当事者情報）

第27期（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1. 関連当事者との取引

（１）親会社及び法人主要株主等

該当事項ありません。

（２）兄弟会社等

属性	会社等の名称	住所	資本金	事業の内容	議決権等の所有 （被所有割合）	関係内容		取引の内容	取引金額 *1	科目	期末残高 *1
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社の子会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス US LLC	アメリカ、ニューヨーク州	千USドル 137,451	持株会社	-	-	経営管理	貸付金の回収	千円 -	未収入金	千円 251,172
								金銭の貸付 *2	千円 2,428,604	長期貸付金 *2	千円 2,428,604
								役務提供に対する対価支払	千円 714,927	未払費用	千円 143,333
親会社の子会社	パインブリッジ・インベストメンツ LLC	アメリカ、ニューヨーク州	千USドル 2	投資運用会社	-	-	一任及び助言契約	委託調査費の支払 *3	千円 245,995	未払費用	千円 79,418
								その他役務提供に対する対価受取	千円 160,063	未収入金	千円 203,148
親会社の子会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド	イギリス、ロンドン	千スターリングポンド 200	投資運用会社	-	-	一任及び助言契約	委託調査費の支払 *3	千円 516,003	未払費用	千円 227,613

（取引条件及び取引条件の決定方針等）

*1 消費税等の取り扱いについては、国内取引については損益計算書項目は税抜き、貸借対照表項目については税込みで表示しております。尚、海外取引は全て免税取引となっております。

*2 貸付金は1,254,000千円及び1,174,604千円の二契約であり、貸付期間はそれぞれ平成24年3月26日から平成26年3月25日、及び平成24年3月31日から平成26年3月31日となっており、受取利息は満期時に元本とともに支払われ、利息額は利息計算期間初日の二営業日前のTIBOR12ヶ月物プラス1%を日割り計算で計算されます。尚、担保は受け入れておりません。

*3 委託調査費の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

（１）親会社情報

パインブリッジ・インベストメンツ・リミテッド（金融商品取引所に上場しておりません）

パインブリッジ・インベストメント・ホールディングス・（ホンコン）・リミテッド（金融商品取引所に上場しておりません）

パインブリッジ・インベストメント・ホールディングス・リミテッドSarl（金融商品取引所に上場しておりません）

パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングスB.V.（金融商品取引所に上場しておりません）

（２）重要な関連会社の要約財務諸表

該当事項ありません。

第28期（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

1. 関連当事者との取引

（１）親会社及び法人主要株主等

該当事項ありません。

（２）財務諸表提出会社の子会社

属性	会社等の名称	住所	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
子会社	パインブリッジ・インベストメンツ・キャピタル・インディア・プライベート・リミテッド	インド、ムンバイ	千INDルピー 1,136,147	持株会社	所有直接 99.9%	兼任二名	-	増資の引受 * 1	千円 211,740	-	千円 -

(3) 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社

属性	会社等の名称	住所	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額 *2	科目	期末残高 *2
						役員の兼任等	事業上の関係				
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス US LLC	アメリカ、ニューヨーク州	千USドル 156,980	持株会社	-	-	経営管理	貸付金債権及び利息債権の親会社への譲渡による消滅 *3	千円 2,442,253	-	千円 -
								役務提供に対する対価支払	千円 435,890	未払費用	千円 128,854
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ LLC	アメリカ、ニューヨーク州	千USドル 2	投資運用会社	-	-	一任及び助言契約	委託調査費の支払 *4	千円 216,741	未払費用	千円 83,655
								役務提供に対する対価支払	千円 39,467	未払費用	千円 33,597
同一の親会社を持つ会社	パインブリッジ・インベストメンツ・ヨーロッパ・リミテッド	イギリス、ロンドン	千スターリングポンド 200	投資運用会社	-	-	一任及び助言契約	委託調査費の支払 *4	千円 404,020	未払費用	千円 92,259

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

- *1 増資の引受は、子会社が行った増資を全額引き受けたものであります。
- *2 消費税の取り扱いについては、国内取引については損益計算書項目は税抜き、貸借対照表項目については税込みで表示しております。尚、海外取引は全て免税取引となっております。
- *3 貸付金は1,254,000千円及び1,174,604千円の二契約がありましたが、平成24年8月13日をもって未収利息を含めた全額が、現物配当として当社の親会社であるパインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングス B.V. に対し債権譲渡されました。
- *4 委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

2. 親会社又は重要な関連当事者に関する注記

(1) 親会社情報

パインブリッジ・インベストメンツ・リミテッド（金融商品取引所に上場しておりません）
 パインブリッジ・インベストメント・ホールディングス・（ホンコン）・リミテッド（金融商品取引所に上場しておりません）
 パインブリッジ・インベストメント・ホールディングス・リミテッドSarl（金融商品取引所に上場しておりません）
 パインブリッジ・インベストメンツ・ホールディングスB.V.（金融商品取引所に上場しておりません）

(2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当事項ありません。

(1株当たり情報)

第27期 自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日	第28期 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日
--------------------------------------	--------------------------------------

1株当たり純資産額	116,613円99銭	1株当たり純資産額	27,534円 3銭
1株当たり当期純損失金額	31,158円 3銭	1株当たり当期純損失金額	28,282円 1銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純損失金額については、新株予約権付社債の発行がないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益額については、新株予約権付社債の発行がないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純損失金額の算定の基礎は、以下のとおりであります。

第27期 自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日		第28期 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日	
当期純損失	1,277,479千円	当期純損失	1,159,562千円
普通株主に帰属しない金額	-	普通株主に帰属しない金額	-
普通株主に係る当期純損失	1,277,479千円	普通株主に係る当期純損失	1,159,562千円
普通株式の期中平均株式数	41,000株	普通株式の期中平均株式数	41,000株

(重要な後発事象)

第27期 自 平成23年4月 1日 至 平成24年3月31日	第28期 自 平成24年4月 1日 至 平成25年3月31日
(退職者の募集) 当社は、経営改善計画の一環として、平成24年6月8日から従業員及び役員80名中16名の雇用調整を実施しており、これによる割増退職金等の支出見込額（約220,014千円）を特別損失として平成24年度に計上する予定であります。	該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (3) 通常取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下（4）（5）において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記（3）（4）に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

(1) 定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

(2) 訴訟事件その他の重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

1) 受託会社

名称及び資本金の額（平成25年3月末日現在）

三菱UFJ信託銀行株式会社 324,279百万円

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

2) 投資顧問会社

名称及び資本金の額

ブランデス・インベストメント・パートナーズ・エルピー

(Brandes Investment Partners, L.P.)

資本金の額については、株式を発行していないため、該当事項はありません。

事業の内容

主として米国において、投資顧問業を営んでいます。

3) 販売会社

名称及び資本金の額（平成25年3月末日現在）

a. 株式会社愛知銀行 18,000百万円

b. 株式会社親和銀行 36,878百万円

c . 株式会社三重銀行	15,295百万円
d . 株式会社北海道銀行	93,524百万円
e . 三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279百万円
f . 三井住友信託銀行株式会社	342,037百万円
g . カブドットコム証券株式会社	7,196百万円
h . 株式会社S B I証券	47,937百万円
. 株式会社大垣共立銀行	36,166百万円
j . 楽天証券株式会社	7,495百万円
k . 百五証券株式会社	3,000百万円
l . 内藤証券株式会社	3,002百万円
m . リテラ・クレア証券株式会社	3,794百万円
n . 株式会社みなと銀行	27,484百万円
o . 水戸証券株式会社	12,272百万円
p . 木村証券株式会社	500百万円
q . 株式会社宮崎銀行	14,697百万円
r . 立花証券株式会社	6,695百万円

事業の内容

- a . ~ d . 、 . . n . および q . は銀行法に基づき銀行業を営んでいます。
- e . および f . は銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。
- g . 、 h . 、 j . ~ m . 、 o . 、 p . 、 r . は金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

2【関係業務の概要】

1）受託会社

当ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理・計算、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行います。

なお、信託事務の処理の一部について、後記の日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。

2）投資顧問会社

当ファンドの投資顧問会社として、当ファンドの委託会社であるパインブリッジ・インベストメンツ株式会社より運用の指図権の委託を受け、運用の実行、議決権の行使等を行います。

3）販売会社

当ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の実行請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

3【資本関係】

1）受託会社

該当事項はありません。

2）投資顧問会社

該当事項はありません。

3）販売会社

該当事項はありません。

参考情報 再信託受託会社の概要

名称	: 日本マスタートラスト信託銀行株式会社
資本金	: 10,000百万円（平成25年3月末日現在）

- 資本構成 : 三菱UFJ信託銀行株式会社46.5%、日本生命保険相互会社33.5%、
明治安田生命保険相互会社10.0%、農中信託銀行株式会社10.0%
- 業務の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

第3【参考情報】

平成24年10月25日 臨時報告書 提出

平成25年 1月11日 有価証券報告書、有価証券届出書 提出

平成25年 1月25日 臨時報告書 提出

独立監査人の監査報告書

平成25年6月5日

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

取締役会御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 荒川 進
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているパインブリッジ・ワールド株式・オープンの平成24年10月16日から平成25年4月15日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、パインブリッジ・ワールド株式・オープンの平成25年4月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。

[委託会社の監査報告書（当期）へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成25年 6月13日

パインブリッジ・インベストメンツ株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士 荒川 進
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているパインブリッジ・インベストメンツ株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第28期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、パインブリッジ・インベストメンツ株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1．上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。